

令和7年度
トウル市派遣親善研修生
報告書

令和7年9月4日(木)～9月17日(水) 14日間



公益
財団
法人

Takamatsu International Association
高松市国際交流協会

目 次

1 親善研修生滞在日程表	1
2 フォトギャラリー	3
3 親善研修生 報告書 I	
香川大学 農学部応用生物科学科 3年 田中 心渚	
日誌・活動記録	5
感想文「食と私とツールをつなぐ」	18
4 親善研修生 報告書 II	
岡山大学 教育学部 中学教育コース英語教育専修 4年 山下 友大	
日誌・活動記録	19
感想文「ツールで深めた交流と、教師としての新しい出発」	36

令和7年度 トール市派遣親善研修生 滞在日程表

令和7年9月4日(木) – 9月17日(水)

日付	場所	内容
9月4日(木)	高松空港 – 羽田空港	—
9月5日(金)	羽田空港 – ヘルシンキ・ヴァンター空港 – シャルル・ド・ゴール空港 – サン・ピエール・デ・コール駅到着 (TGV)	トール市役所職員・ホストファミリー出迎
9月6日(土)	トール植物園 Botanique aux couleurs du Japon	日本文化紹介イベントに参加 うちわワークショップ
9月7日(日)	ホストファミリーと過ごす	—
9月8日(月)	アルチュール・リンボー小学校訪問	書道・おりがみ・空手ワークショップ
	トール美術館	館内見学
	学習支援センター訪問	高松市の紹介・学生との交流
9月9日(火)	トール大会議場	高齢者の方を対象としたイベントに参加 日本文化紹介ワークショップ
9月10日(水)	キッズレジャーセンター訪問	おりがみワークショップ
	図書館訪問	書道・おりがみ・空手ワークショップ
	トール市役所	歓迎レセプション ホストファミリー・関係者が参加
9月11日(木)	徒弟制度博物館(工芸博物館)	職人が使用する道具や技術を見学
	シモーヌ・ヴェイユ小学校訪問	書道・おりがみ・空手ワークショップ
	トールラング語学学校	学校見学・留学生との交流
9月12日(金)	自然史博物館	館内見学
	トール市内観光	歴史建造物などの見学
	日仏交流協会 39JAPAN 交流会	空手・ソーラン節ワークショップ
9月13日(土)・14日(日) ホストファミリーと過ごす		
9月15日(月)	サン・ピエール・デ・コール駅出発 (TGV) – モンパルナス駅	—
	パリ	パリ市内観光
9月16日(火)	シャルル・ド・ゴール空港 – 羽田空港	—
9月17日(水)	羽田空港 – 高松空港	—

【9月5日(金) – 14日(日) トール市でホームステイ、9月15日(月) パリ市内泊】

Tours Ambassadors 2025 Photo Gallery



【サン・ピエール・デ・コール駅】
ホストファミリーと対面



【トゥール植物園】
日本文化紹介イベントに参加



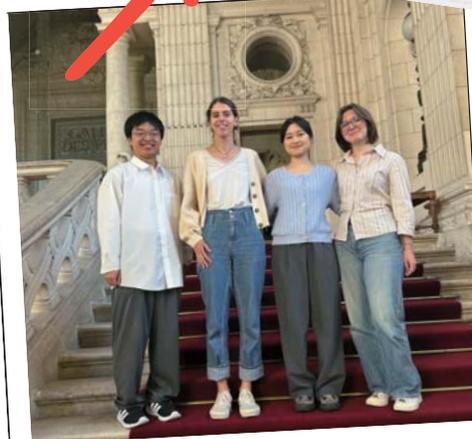
うちわに書道で名前を書いて
プレゼントしました



【現地小学校】
空手ワークショップ



【現地小学校】
書道ワークショップ



【トゥール市役所】
現地新聞会社からの取材を受ける



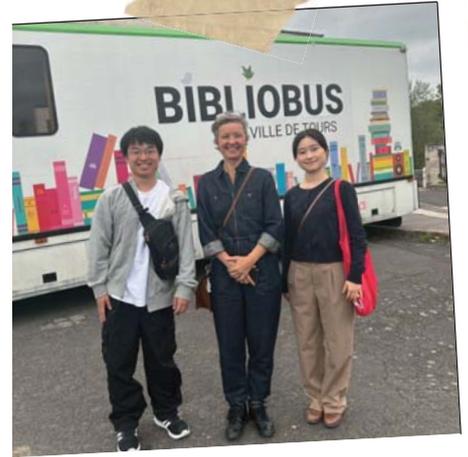
【大会議場】
高齢者の方を対象としたイベントに参加



【大会議場】
ソーラン節の披露



キッズリクリエーションセンター訪問
おりがみワークショップ



現地図書館訪問
おりがみ・書道ワークショップ



【トゥール市役所】
歓迎レセプション

Tours Ambassadors 2025 Photo Gallery



【トゥールラング語学学校】
現地留学生のみなさんと交流



【現地日仏交流協会】
39JAPANのみなさんと交流



自然史博物館見学



【古城めぐり】
シャンボール城見学

親善研修生 報告書 I

日誌・活動記録

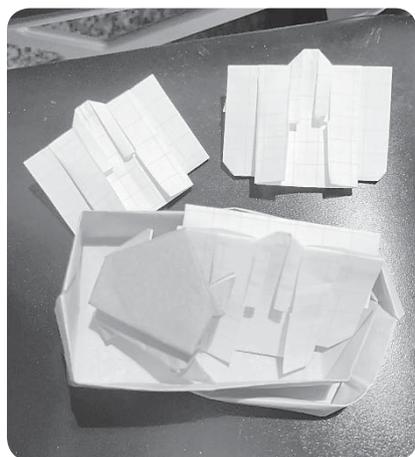
香川大学 農学部応用生物科学科 3年 田中 心渚

9月4日(木)

家族、高松市国際交流協会の青木事務局長、西村さん、高松商運株式会社の田井さんに温かく見守られ高松を出発した。ツールでの活動に期待を抱くと同時に、親善研修生としてワークショップを成功させなければならないというプレッシャーを感じ、少し不安になった。高松を出発し、羽田に到着した後、渡仏前の最後の日本食として、とん平焼きを食べた。渡航前に日本食を食べておきたいと思うのは、大前提として日本食が好きであるということ、そして、日本食が自分の胃袋だけでなく、心までも満たしてくれる存在であるからだと思う。私は、日本食に誇りを持っている。香川で有名なうどんも含め、日本食のおいしさを世界中の人と共有できれば楽しいだろうと思う。食品を学ぶ学生として、食を通して高松とツールをつなぐことが、私の目標である。

9月5日(金)

フランスへ向かう12時間以上のフライトは中々深い眠りにつくことができなかった。羽田空港から経由地であるヘルシンキ空港に到着して外に出ると肌寒かった。この寒さが日本から離れていることをより感じさせた。ヘルシンキ空港には、少し早く到着したので、待ち時間があった。空港内を散策した後、同じく親善研修生の山下さんとワークショップのために折り紙の練習をした。ヘルシンキ



空港で折り紙練習

空港を出発してようやくフランス・パリのシャルル・ド・ゴール空港に到着した。空港では、ガイドさんと合流した。フランスの生活様式、パリの観光地、帰りに使うロワシーバスの切符の買い方などたくさんのことを教えてくれた。最後には日本のお茶を振る舞ってもらい、暖かく見送ってもらった。シャルル・ド・ゴール空港からTGVに乗って、いざツールへ。TGVは8番列車を予約していたが、電車がとても長いので、どこに8番列車があるか分からず、重いスーツケースを持ちながら走って自分たちの列車を探した。自分たちの車両を見つけてほっとしたのも束の間、TGVに乗り込むと、スーツケースを入れる棚がすべて埋まっており、荷物を収納できずに席に座れないというハプニングに見舞われた。私たちはキャリーケースに座ったまま少しの間移動した。もう予約席には座れないと半ば絶望していると、降車する乗客がいて、キャリーケースを置くスペースを確保できたため、無事自分たちの席に座ることができた。やはり、初めて利用する交通機関は難しいものだ。事前調べ、早めの行動がいかに大切かを感じた。TGVの車両から窓の外を眺めていると、パリの活気ある雰囲気から田舎の穏やかな風景に徐々に変わっていった。田舎といっても日本の田舎とは違う。日本の田舎は、狭い土地に畑が敷き詰められているのに対し、フランスの田舎は、広大な土地一面に畑が広がっている。端が見えないほどに広い畑で大量に食料が生産されていると考えると、フランスの食料供給力がいかに大き

いかを感じる。そんな風景に魅了されていると、あっという間にトゥールに到着した。ここで、初めてトゥール市役所のオロールさんとホストファミリーに会うことができた。私のホストマザーは、ファディーラさんという方である。みんなで写真を撮った後、すぐにファディーラさんの家へ移動した。家に向かう途中で、ファディーラさんの家には2人の留学生在滞していることを知った。1人目は、アメリカ合衆国出身のマシアさん、2人目は、ホンジュラス出身のティファニーさんである。マシアさんは、フランス語学学校に通うために、約1週間前にやって来たという。彼女は英語とスペイン語を話す。ティファニーさんは、フランス語の先生になるために、トゥールの学校に通っているといい、彼女もマシアさんと同様、約1週間前にやってきたという。彼女はスペイン語とフランス語を話す。ホストファミリー3人に暖かく迎えられて、私のホームステイ生活が始まった。到着して荷物の整理をしていると、あっという間に夕食の時間がやってきた。フランスの食文化として「アペリティフ」というものがある。「アペリティフ」はフランス語で「食前酒」を意味する。アペリティフでは、簡単に準備できるバゲットやチーズなどで、小腹を満たす。アペリティフから始まり、その後メイン料理、デザートが順に出された。すべての料理が一度に出るのではなく、順を追って料理が出てくるので、一つ一つの料理を味わって食べることができた。自己紹介を含めて、みんなで会話を楽しんだ。私たちは、みな母国が異なるため、話す言語も様々で、英語、フランス語、スペイン語が飛び交うという、国際的な空間だった。19時頃に始まった夕食は21時頃に終了した。この2時間の間、話が絶えなかった。食事を通して会話をすることが自然と作られていることに気づき、フランス人が食事の時間を大切にしている理由が分かった気がした。



ホストファミリーと初めての食事

9月6日(土)

この日は、朝食にバゲット、クロワッサン、アップルパイを食べた。バゲットは、この日の朝に、ファディーラさんが買ってきてくれた焼き立てのもので、格別においしかった。朝食を食べた後、ティファニーさんとマシアさんとともに、マーケットに向かった。野菜や果物などがずらりと並べられていて、種類の多さに圧倒された。日本より大きいサイズのものが多い気がした。

午後からはトゥール植物園で行われる日本文化を紹介するイベントに参加した。私たちは習字のワークショップを行うことになっていた。この時、初めて、トゥール市の親善研修生であるとガブリエルとマルゴーに会うことができた。14時にワークショップが始まってから、私たちのブースを訪れる人が絶えなかった。皆が習字に興味津々で、名前や好きな字をうちわに書いてプレゼントすると「メルシーボクー」（フランス語で「ありがとうございます」という意味）と感謝の言葉をくれた。うちわは30分程で無くなってしまった。うちわがなくなってからは、半紙に字を書いてプレゼントすることにした。ブースに来てくれた人の名前を書くときに、名前が聞き取りにくく、カタカナに変換することに苦戦す



習字ワークショップの様子

ることもあった。しかし、ガブリエルとマルゴーがゆっくり発音して教えてくれたおかげで、スムーズにワークショップを進めることができ、たくさんの人に、習字の作品をプレゼントすることができた。同様の習字ワークショップは、歴代の親善研修生によって行われていて、とても人気であったことは事前に聞いていたが、実際にワークショップを行って、その人気ぶりを実際に感じた。習字が、こんなにも人々を魅了することに驚くと同時に、習字という日本の文化を改めて誇りに思った。ワークショップには、小さな子供から高齢者まで、幅広い年代の人々が来てくれた。その中には、高松にこれから来る予定の人や将来行ってみたいと考える人がたくさんいた。もちろん、高松について全く知らない人もいたが、その人達は、このワークショップを通じて、高松に興味を持ってくれたのではないかと思う。このワークショップ中、植物園内で、私たちがプレゼントしたうちわを持った男性が他の人にそのうちわについて説明している姿を私のホストファミリーが見たと言っていた。この時、自分が作った作品を通じて、人から人へ日本の文化が伝わっていくことを実感し、このワークショップを開催できたことを光栄に思った。高松での事前研修の段階では、現地でのワークショップに不安を持っていたが、今日のワークショップが想像以上に充実していたため、来週以降のワークショップへの期待が一層高まった。

この日の夜は、ティファニーさんが彼女の母国料理を振舞ってくれることになっていた。ワークショップのあと、帰宅して、キッチンを覗くとティファニーさんが料理を始めていた。彼女は英語を話さないで、私たちは共通に理解できる言語がなく、コミュニケーションを取れるか少し不安だった。それでも思い切って「料理を作るのを見ていい？」とジェスチャーで伝えると「いいよ！」と言ってくれた。海外の料理にとっても興味があり、知りたいこともたくさんあった。「これは何？」や「この材料とこの材料を混ぜるの？」などジェスチャーを使って聞くと、ティファニーさんもジェスチャーを使って答えてくれた。途中からは、料理を手伝って、一緒に料理を楽しんだ。この時、私とティファニーさんの距離が縮まった気がした。今まで、共通言語がない人と話したことはなかったが、言語がなくても人間は通じ合えることが分かった。一緒に味見をして、辛いや甘いなどについて表情で表現したり、料理が仕上がってきたら、グッドと手で表現したりした。食が共通言語のない私たちをつないだ。この時、食は単においしさを提供するだけでなく、人と人とをつなぐ架け橋となることを知った。



ティファニーさんが料理

9月7日(日)

朝食を食べた後、ティファニーさん、マシアさんとショッピングに出かけた。この日は、大通りの店が、店外にずらりと商品を出す日で、あたり一面、たくさんの商品と人で溢れかえっていた。ショッピングの区画に入る前に、警備員にカバンの中を見せる必要があった。テロ対策なのだろう。何回も出入りしたので、その都度、カバンを開けなければならなかった。長い店通りを歩いて、各々お気に入りの商品を購入することができた。



通りに並ぶ店とたくさんの人



ランチにガレットを堪能

ショッピングを楽しんだ後、昼食としてガレットを食べた。ガレットは、そば粉を使ったフランス料理で、以前から食べたいと思っていた。素朴な味の生地と卵やチーズなどの具材が調和して、とても美味しかった。そのあとはカフェに行って、デザートを食べ、帰宅した。

夕食の時間は、今日のショッピングの話をした。買ったものを紹介したり、人が多すぎてはぐれかけたことを話したりしながら夕食の時間を楽しんだ。ショッピングの話以外には、ステレオタイプが話題となった。フランスに住ん

でいない人は、フランス人が皆ベレー帽を被ってバゲットを持っていると思っているとファディーラさんは話した。実際、そんなことはないという。私自身もそのようなイメージを抱いていたが、実際にフランスに来て、ベレー帽を被ってバゲットを持っている人は一度も見えていないので、勝手な思い込みで過ぎなかったことが分かった。日本人に対しても同じで、日本はアニメや漫画が有名なために、日本人は全員アニメと漫画が好きであると海外の人は思いがちである。しかし、現実はそのようではなく、私自身も含め、日本のアニメや漫画についてあまり詳しくない人もいる。多くの人がよく知らない国に対して、何らかのステレオタイプを持っていると思う。自分の足でその国を訪れ、自分の目で見て感じることで、その国を本当に知ることができると思った。

9月8日(月)

今日はトゥール市にあるアルチュール・ランボー小学校で折り紙、空手、習字のワークショップを行った。折り紙ワークショップでは、箱を作成した。平面の折り紙から立体の箱が誕生するのを見たときの子供たちの驚いた表情が忘れられない。空手のワークショップでは、子供たちが元気いっぱい体を動かしていた。私たちの真似をしようと熱心に取り組む姿勢が感じられた。習字ワークショップでは、名前をカタカナで書いた。先生方も習字に興味津々だったので、実際に体験してもらおうと喜んでいて、子供たちの中には、兄弟の名前を書いてあげたいという子がいて、習字が人を喜ばせるためのツールになっていることを感じた。ワークショップが終わって、質問を受ける時間があった。日本のアニメやお寺についての質問など、子供たちは日本についてとても興味を持っているようで、質問が絶えなかった。中には、日本語で自己紹介してくれる子もいた。何千種類とある言語の中で、日本語を選んで勉強してくれていることがとてもうれしかった。日本語を勉強したいと思わせるほど、日本は人を惹きつける魅力を持っているのだと思う。



空手ワークショップ

午前中のワークショップを終えた後、サンガシアン大聖堂を訪れた。サンガシアン大聖堂は1160年から1547年にかけて建造され、1862年に歴史的建造物に指定された建物で、聖堂内の美しいステンドグラスが印象的だった。聖堂内は暗いので、ステンドグラスがより一層輝きを放って見えた。その後、トゥール美術館を訪れた。ガイドさんが、いくつかの絵画について、作品の特徴や背景を説明してくれた。作品に関する歴史的背景を知るだけで、作品の見方が180度変わった。美術館だけな



「エジプトへの逃避」

く、訪問するすべての場所について、その歴史を事前に学んでおくことは、より深い理解や学びを得るために大切だと思った。美術館内には、たくさんの作品が展示されていたが、特に印象に残っているのが「エジプトへの逃避」という絵画である。この作品は、レンブラント・ファン・レインによって描かれたもので、聖家族がエジプトへと逃れる場面を描写している。明暗のコントラストが非常に美しく、魅了された。聖家族と馬に注がれた光は、希望や神への道筋を象徴しているという。

美術館見学を終えた後、青年育成施設を訪問した。この施設では、補助が必要な子供たちを含め、誰もが自由に生き生きと勉強できる場を提供している。施設に入ると、職員の方がとても温かく迎え入れてくれた。この施設に来ることは義務ではなく、子供たちが来たいと思ったときに自由に通える場であるという。施設内では、数人の子供たちがノートを開いて勉強していた。集団で何かに取り組んでいるというよりは、個人の世界に入って、物事に取り組んでいるようであった。自分の空間を大切にできるような場所がここでは提供されていて、このような施設は、フランスだけでなく、どの国でも必要であると感じた。職員の方を含め、施設のみなさんに私たちが制作した高松市紹介動画を見せて、高松市のことについて知ってもらった。この動画では、うどんの作り方やうどんの種類など香川県の名物であるうどんを紹介する食パートと瀬戸内国際芸術祭のアーートを紹介する芸術パートで構成されている。



施設で出会った女の子

9月9日(火)

午前中、新聞記者からインタビューを受けることになっていた。インタビューの前に少し時間があつたので、マルゴーと彼女の大学の図書館へ向かった。食品に関する本のコーナーには、ワイン、チーズ、食の歴史など、食に関する専門書がずらりと並んであつた。それらの本は、英語で書かれた本もあるが、やはりフランス語で書かれた本が多い。フランス語を勉強してこれらの本を読みたいと思うくらい、私の学習意欲を掻き立てる場であつた。そのあと、マルゴーの大学も見学した。マルゴーの大学には食品に特化した博士課程のコースがあるという。フランスの食に魅了された今、この地で学ぶことも将来の選択肢となつた。

大学を見学した後、市役所に移動し、新聞記者からインタビューを受けた。食品を学ぶ生徒として、フランスの食について理解を深めるとともに、高松市のうどんについて情報発信したいと答えた。記者の方々、うどんを知らなかったようで、まだまだうどんの認知度は低いと感じた。同時に、うどんについて広めていく価値があると感じた。

午後からは高齢者の方を対象にしたパーティーに参加した。事前に、このパーティーの参加者は約50人と聞いていたので、習字は25人ずつグループ分けをして行うことにしよう、ソーラン節は全員で輪になって踊ろうなどのように考えていた。会場に到着すると、高齢者の方々が、次から次へと会場へ入っていく様子が見えた。この時、パーティーの規模の大きさが、想像をはるかに超えるもので

あることを認知した。会場内に入ると、1階のホール一面に、食事が準備されたテーブルが用意されており、すでに多くの人で賑わっていた。12時から予定されていた食事は、約1時間遅れて、市長の言葉とともにスタートした。このパーティーは、市長と政治家が主催しており、選挙での投票を促す意味もあるそうだ。選挙が絡むとはいえ、このように高齢者が同じ場所に集まる機会があるのはとてもいいことだと思った。このような場を設けることで、新たなコミュニティができて、市民間の団結が深まると思う。



高齢者パーティーの会場

市長の言葉で、このパーティーに約800人が参加しているということを知った。私たちが、800人の前でソーラン節を披露することを考えると、とても不安になった。私たちの出番が来るまでは、用意された食事を堪能した。いよいよ私たちの出番になった。



ソーラン節を踊る様子

司会の方が、私たちのことやソーラン節についての説明をしてくださると同時に、一緒に踊ってくれる参加者を募ってくれた。音楽が流れ始めると、緊張は吹き飛んで、いつも通り踊りを楽しむ自分がいた。一緒にステージに立ってくれた高齢者の方と目を合わせながら、一体となって踊りを披露することができた。最初は人数の多さに圧倒されていたが、踊りを終えた時には、こんなにもたくさんの人にソーラン節という日本の文化を知ってもらえてよかった、

楽しんでもらえてよかったという達成感で満たされていた。ソーラン節を披露した後は、折り紙と習字のワークショップを行った。折り紙ワークショップでは、着物の折り紙に惹きつけられる人が多かった印象だ。高齢者の方にとって、着物の折り紙は作ることが難しいように見えたようで、私たちが作った着物の折り紙をプレゼントすることが多かった。

この日の夜は、ガブリエルが所属している地域の柔道クラブの練習に参加した。フランスではフットボールに続いて、柔道が人気だそうだ。私は柔道初心者のため、何も分からなかったが、コーチ含め、みんなが優しく教えてくれた。「待て」、「始め」、「三角締め」、「小内刈」など、日本語が聞こえてきたとき、どこかほっとする自分がいた。私に、技名の発音を確認する人もいて、正しい日本語で技名を覚えようとする姿勢がとてもうれしかった。このクラブチームには10代から50代まで、幅広い年代の方が在籍しており、いろいろな人に柔道が親しまれていることが分かった。最後に日本のお菓子をプレゼントすると、とても喜んでくれた。



柔道クラブのみなさんと

9月10日(水)

午前中、キッズレジャーセンターを訪問した。ここでは、4、5歳の子供たちを対象に、折り紙ワークショップを行った。折り紙ワークショップの前に、高松市紹介動画を見せると、子供たちは興味津々で、歓声があがることもあった。小さな子供たちにも、高松についてのイメージが刻み込まれている

ことを思うと、とてもうれしかった。折り紙ワークショップでは、まず紙飛行機を作成した。紙飛行機が完成すると子どもたちは一斉に立ち上がって、紙飛行機を飛ばし始めた。「次は違うものを作るよ」と声をかけると、何を作ることができるのかと期待する表情で、すぐに集まってくれた。2種類目に作成するものとして、私は蛙を選んだ。飛行機に比べてかなり難易度は上がるが、ぴょんぴょんと跳ねる蛙は子供たちが喜ぶに違いないと思い、蛙を作ることにした。先生含め、作ることに苦戦しているようだったが、サポートしながらなんとか作り上げることができた。ぴょんっとカエルをとばすと、子供が目を輝かせて楽しんでくれた。たった1枚の紙が子供の目を輝かせること、立派なおもちゃになることに改めて折り紙の魅力を感じた。集合写真を撮った後、教室から退出しようとする時、1人の女の子がハグをしてくれた。すると、次々に子供たちがハグをしてくれた。私も子供たちを包み込むようにハグをした。2時間足らずという短い時間にも関わらず、心を通わせてくれたことが本当に嬉しかった。折り紙が、私と子供たちの心をつないだことを感じる瞬間であった。



先生と子供たちと折り紙

午後は図書館を訪問した。この図書館はとても小さな図書館である。小規模であるがゆえに、職員と利用客の距離がとても近く、コミュニケーションがとりやすい点がこの図書館の良い点だという。



図書館でのワークショップの様子

ワークショップには4歳くらいの小さい子からお年寄りまで様々な年代の方が参加した。空手を披露した後、子供と大人に分けてワークショップを進めた。私は大人を担当することになり、着物の折り紙を作ることにした。着物の折り紙で使う和紙を見せると、その美しさに魅了され、目を輝かせていた。苦戦する工程もあったが、比較的スムーズに進めることができ、着物を作り上げることができた。裾の長さを変えることで着物にも法被にもなることを説明すると、なるほどと納得していた。その後、習字のワーク

ショップを行った。カタカナで名前を書いたり、好きな文字を書いたりしてもらった。漫画が好きな男性は、画数の多い「漫画」という漢字に苦戦しながらも上手に書き上げていた。図書館の職員の方から、図書館入口の看板にするために「ようこそ」という文字を書いてほしいと言われた。展示品になることから、少しプレッシャーを感じながら書いた。プレゼントするととても喜んでくれた。

図書館でのワークショップを終えた後、ツール市役所での歓迎セレモニーに参加した。この日は、ストライキの影響で、交通機関が通常運行しないこともあり、参加者は予定より少なくなってしまった。ストライキの音が外で鳴り響く中、歓迎セレモニーは始まった。市役所の方をはじめ、多くの方が私たちを歓迎してくれた。私たちの活動が多くの人々の支えによって成り立っていることは、十



スピーチをする様子

分承知していたがこの時、改めてそのことを感じた。スピーチでは、自己紹介をフランス語で話したあと、英語でこの活動を通して高松の食文化を広めたいこと、トゥールの人々との食事を通して食事が人と人をつなぐことに気づいたこと、ホストファミリーへの感謝の気持ちなどを伝えた。このセレモニーを機に、親善研修生であることを再確認するとともに、これからの活動をより一層頑張ろうと思うことができた。セレモニー終了後はホストファミリーと帰宅した。ホストファミリーは、セレモニーでの私の姿をたくさん褒めてくれた。本当に暖かい家族だ。ファディーラさんは、夕食に、私の大好きなガレットを作ってくれた。まるでレストランで出てくるような盛りつけで魅了された。

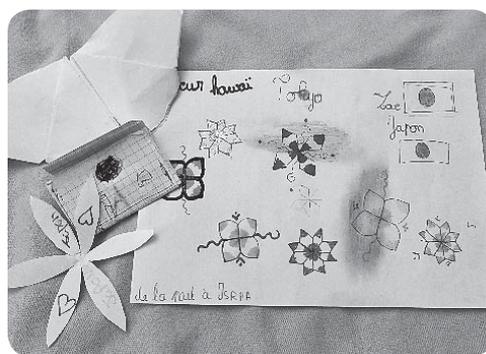
9月11日(木)



砂糖で作られたお城

午前中、徒弟制度博物館（コンパニオナーージュ）を訪問した。この博物館では、様々な職人たちによって作られた作品が展示されている。例えば、革職人、石職人、パン職人などの作品である。私が最も感銘を受けたのは、砂糖生地で作られた作品である。お城や家の模型が砂糖生地で作られていると知ったときの衝撃はとても大きく、砂糖生地で作ったとは思えない繊細さに驚きを隠せなかった。午後はシモーヌ・ヴェイユ小学校にて、ワークショップを行った。低学年には空手、高学年には折り紙・習字のワークショップを行った。空手ワークショップでは、子供たちは初めての動きに戸惑いを見せるも、元気な声を出して空手を楽しんでいるようだった。高学年クラスの1クラス目では、折り紙ワークショップを行った。ここでは蛙と一緒に作った。苦戦する様子も見られたが、完成して蛙を跳ねさせた瞬間、難しい表情が笑顔に変わった。もう1クラスでは、習字ワークショップを行った。このクラスでは、教室に入った瞬間、私たちのところに子供たちが集まってきて挨拶をしてくれたり、手作りのプレゼントを手渡ししてくれたりした。習字のワークショップでは、見本として子供たちの名前をカタカナで書いてあげると、そのカタカナの上にフランス語で自分の名前を書いて、自分の名前と結びつけて保管してくれた。筆を使って自分の名前を好きなように書いてもらった。字の大きさや字を書く位置

ここでは蛙と一緒に作った



子供たちからの手作りプレゼント



トゥールラング語学学校の皆さん

は人それぞれで、字に個性が表れていた。ワークショップの後、子供たちと話す時間があった。この学校はインターナショナルスクールであり、英語教育に力を入れている。子供たちは勉強した英語を懸命に使って私たちに質問してくれた。私自身についての質問、日本についての質問など、終了時間が来るまで質問は尽きなかった。子供たちとの会話時間が終わり、教室を出ようとする子供たちがハグをしてくれた。このままもっと話したいと思うほど、別れが惜しかった。

その後、トゥールラング語学学校を訪問した。トゥールラング語学学校は、山下さんのホストファミリーであるヤニックさんが校長先生を務めている学校である。日本人も多く在籍している。最初に高松市紹介動画を見せた。日本人学生はいるが、高松出身の人はいなかったの、日本人であっても高松をよく知らない人が多かったと思う。日本人を含めて、高松市について知ってもらえる良い機会となった。その後は、フリートークのような形で会話を楽しんだ。生徒のみなさんに、フランス語を学んでいる理由やフランスでの生活について教えてもらった。また、フランス語のミニレッスンをしてもらった。やはりフランス語の発音は難しい。

9月12日(金)

午前中、自然史博物館を訪問する前に時間があつたので、トゥールラング語学学校のアシスタントである双葉さんが、トゥール市内を案内してくれた。トゥール市内の建物は昔の形を維持しているものが多いという。修復はされるものの、建物すべてを取り壊すわけではなく、一部だけ補強するのみで、大部分は元の形を保っているようだ。日本と違って、地震の影響を受けないので、昔の建物を維持しやすいという。トゥールの街並みはどこをとっても美しく、散歩するだけでも心地よかった。トゥール市内を散歩した後、ショッピングモールに行った。館内を散策中、知らない女性に「ダンスを踊っていた人たちだよね？」と声をかけられた。きっとソーラン節のことだろう。高齢者パーティーの会場では、たくさんお褒めの言葉をいただいたが、まさか会場外でも声をかけていただけとは思っていなかった。私たちが踊ったソーラン節が人の記憶に刻まれていることを実感し、改めて披露してよかったと思った。

トゥール市内の散歩とショッピングを楽しんだ後、自然史博物館を訪問した。この博物館には、水、陸、空すべての生き物が集結していた。子供もよく訪れるそうで、ここでは子供が生き物をただみて楽しむだけでなく、生き物をどう保護するか、扱うかを学ぶことができるよい学びの場になっているという。床は全面青色で統一されていた。この色は、トゥールに流れるロワール川をイメージしているようだ。とても大きい動物から小さい動物までいて、博物館にいるというより、自分が自然の世界に入り込んでいるようであった。



イグアナと私



市役所でのおいしい昼食

自然史博物館を見学した後、トゥール市役所の食堂で昼食を取った。市役所の職員の多くは食堂で昼食をとるそうで、食堂内は、多くの人で賑わっていた。トゥールでは1つの施設でその日の昼食が作られ、市役所、学校に分配されるという。市内の小学校に通う子供を持つ市役所の女性は、子供も自分と同じ昼食を食べるため、子供と共通の話題ができて楽しいと言っていた。サラダ、メイン料理、デザートコーナーからそれぞれ一つずつ食べたいものを取っていくシステムで、全体の量はかなり多かった。どの料理もおいしく、午後の活動前にエネルギーを蓄えることができた。

午後はガイドのアナベルさんにトゥール市内を案内してもらった。トゥールの歴史や有名なカフェなどいろいろな話題を交えて話

してもらいながら、街を散策した。散策する中で、フランスの小説家であるバルザックの家の門を通りを見ることができた。門を超えると普通のドラッグストアがあり、現代の街並みに歴史を感じる部分が残っている点が良いと思った。

アナベルさんに別れを告げた後、ガブリエルとマルゴと合流して、自由時間を過ごした。その後、日仏交流協会の39JAPANのみなさんがいる施設に移動した。高松市紹介動画を見せた後、質問を受け付けると、日本語で一生懸命質問してくれた。事前に質問を紙に書いて準備してくれている人もいて、日本、高松に対する愛が感じられた。私たちは、空手、ソーラン節のワークショップを行った。少し疲れも見えたが、表情はとても明るく、楽しんでいるようだった。その後、フリートークのような形で対話した。日本語で話してくれることは大変嬉しく、親しみを感じた。話していく中で、単に日本のアニメや食べ物が好きであるというのではなく、文化や風土、さらには人々など、総合的に日本を好きであることが感じ取れた。今後、高松に訪問する人もいそう、高松で再会できたらいいなと思う。39JAPANの方々が日本、高松に興味をもち、私たちの母語や文化を学ぼうとしていることを知り、私たちのワークショップが、彼らにとってより日本を好きになるきっかけになればいいなと思った。



39 JAPANの皆さんと

9月13日(土)

今朝は、ファディーラさんと朝7時からパン屋に行った。外は薄暗く、気温は低いので長袖を着ていても肌寒かった。その日に食べるパンはその日に買いに行くことが多いので、この日は昼食に使うサンドイッチ用のバゲットを買いに行った。パン屋に入ると、パンのいい香りがすでに充満していた。目当てのバゲットのほかに、クロワッサン、シュガーボールを買い、帰宅した。ファディーラさんは、昼食用とは別に、焼き立てのバゲットを切って、朝食に出してくれた。焼き立てのバゲットは格別においしかった。



朝からパン屋へ



シャンボール城の前で

朝食を食べた後、シャンボール城へ向かった。シャンボール城はフランスの国王であるフランソワ1世の栄光を讃えて建設された城で、迫力のあるお城と美しい庭園が見どころだ。お城に入ると、レオナルド・ダ・ヴィンチの影響がうかがえる二重螺旋階段があった。この大階段は、二手に分かれて階段を登ったとき、互いに視線を合わせていても、決してすれ違うことはないという面白いデザインである。城内には、厨房や寝室とされる部屋があり、この城で過ごした人達の生活の一端を目で見て感じる事ができた。テラスから見た景色は壮大で、ずっと眺めていたいくらいだった。一通り見学を終えて、昼食をとるために、入り口付近に戻ろうとすると雨

が降り始めた。見学が終わっていたので、運がよかったと
感じる。シャンボール城での見学の帰り、アジアスーパー
マーケットに立ち寄り、今夜振る舞う予定の日本料理の材
料を調達した。帰宅後、さっそく料理に取り掛かった。も
ともと、うどんだけを作る予定だったが、複数の料理が提
供されるフランスの食事スタイルに近づけたくて、卵焼き
も作ることにした。卵焼きを作り終えて、うどん作りに取り
掛かかった。その時、ティファニーさんが帰ってきた。



うどん作りにチャレンジ

彼女は、数日前に違う家に引っ越してしまったので、会う
のが久しぶりだった。ティファニーさん、マシアさんとともにうどん作りを始めた。うどん作り工程
において、2人が最も驚いた表情を見せたのは、やはり「足ふみ」工程だ。食品を足で踏むというの
は、うどん作りを知らない人にとっては到底考えられないことで、驚くのも無理はないと思った。足
ふみをすることで、うどんのおいしさに必要なグルテンという成分の形成が促されることを説明する
と納得してくれた。物事の原理を理解し、それについて知らない人に分かりやすく説明する能力が理
系学生に求められると感じた。高松から持参したさぬき麺業の麺棒で生地を伸ばし、その後、麺をカッ



夕食の食卓

トした。この時、生地が思ったよりベタベタで、生地をカッ
トしたあとに、麺どうしがくっつくという問題が発生し
た。このために、麺をゆでる前に一本一本ほぐすという作
業が加わってしまった。また、手でほぐしたことによって、
麺の太さや長さが不均一になってしまった。フランスの材
料も使用しているので、日本とフランスの材料の違いがう
どんの質に影響したと考えられる。見た目は理想と違って
いたが、なんとかうどんを作ることができた。うどんには
大根おろし、卵焼きには、大根おろしと大葉をトッピング

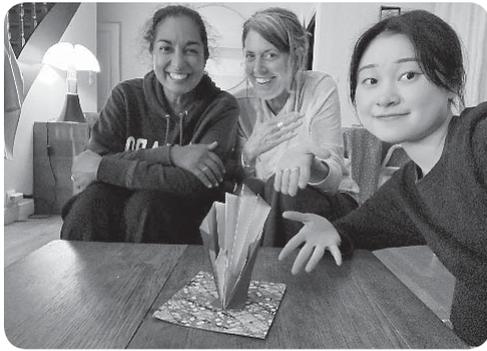
した。夕食の時間になって、みんなで実食した。ファディーラさんの家には箸があったので、箸を使っ
て日本料理を食べてもらった。うどんも卵焼きも美味しいと言ってくれた。特に、うどんのモチモチ
とした食感に虜になっているようだった。いつか高松に来て、本場のうどんを食べてもらいたい。

9月14日(日)

今日はヤニックさんの家に朝から移動して朝食を一緒に食べた。
パン・オ・ショコラやバゲットを買ってきてくれた。やはり何度食
べてもパンは美味しい。この日、初めてヤニックさんの子供たちと
会った。みんなとても元気だった。朝食の後、アゼ・ル・リドー城
を訪問した。水に囲まれたこの城はとても美しく壮大だった。ルネ
サンス期のデザインが施されたお城の内装はとても美しく魅了され
た。昼食を食べたあとは、ロシュ城に行った。ロシュ城は今まで訪
問したシャンボール城、アゼ・ル・リドー城とは違って豪華さ、華
やかさはない。この城は監獄として使用されてきた経緯があり、中
には牢屋や尋問室などがあった。人が脱出しようと壁をかいた跡が



アゼ・ル・リドー城



鶴の折り紙をプレゼント

残っていて当時の過酷さを感じさせられた。華やかなものだけがお城ではない。

この日は、ホストファミリーと最後の夜だった。ファデーラさんは私の好きなガレットを作ってくれた。さらに、私が欲しいと言っていたトゥールのワイングラスをプレゼントしてくれた。一生の宝物だ。私からは折り紙の鶴をプレゼントした。数日に分けてお土産を渡していったが、最後のお土産は鶴にすると決めていた。金色に光る鶴に目を奪われるように感動している様子だった。作り方を

教えてくださった折り紙講師の田中先生に感謝したい。

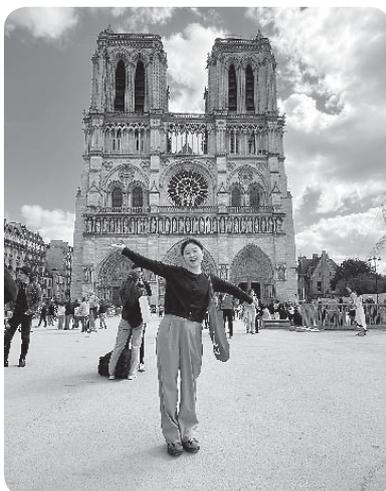
9月15日(月)

あっという間に出発の日を迎えてしまった。最後の朝食は、バゲットを噛みしめて食べた。もうこの朝食が食べられないと思うと悲しい。支度をして、マシアさんに別れを告げた後、市役所までファデーラさんとともに移動した。朝の通勤ラッシュでトゥール市役所の中まで車を入れることができなかつたので、道中でお別れとなった。また絶対帰ってきますと言って、別れを告げた。市役所でガブリエルとマルゴーに会う予定だったが、私たちがすぐ出発したために2人に会うことができなかつた。市役所から駅



駅まで2人が駆けつけてくれた

に移動して、電車を待っていると、ガブリエルとマルゴーが現れたのだ。市役所で会えないことが分かって、急いで電車で駅まで来てくれたという。2人が10月に高松に来るまでもう会えないと思っていたので、もう一度会うことができるととても嬉しかった。2人は私たちにお土産をくれた。2人にはこの2週間、本当にお世話になった。ワークショップ先までのバスやトラムを使った移動に付き添ってくれたり、ワークショップでは、通訳として私たちと市民の方々のコミュニケーションを円滑にしてくれたりした。2人のおかげでワークショップを成功できたといっても過言ではない。私たちの



ノートルダム大聖堂の前で

ワークショップに興味を持ってくれて、空手、ソーラン節、折り紙、習字に彼女たち自身も取り組み、楽しんでくれた。また、日本語の勉強もしているようで、いくつかの日本語を教えてあげることもあった。日本、高松を好きでいてくれるふたりが親善研修生でよかったと心から思った。

トゥールを出発して私たちはパリに向かった。パリに向かうTGVの中ではトゥールでの思い出を振り返っていた。トゥールの街並み、そしてトゥールの人々が私をトゥールの虜にした。トゥールにまた戻ってこようと思った。思い出に浸っていると、あっという間にパリに到着した。宿泊予定のホテルに着いて荷物を預け、帰りのバス停を確認した後、パリ観光が始まった。まずノートルダム大聖堂へ行った。火災によって大部分が焼けてしまった過去があるが、

修復工事によって取り戻した美しい姿は、多くの人を魅了していた。

私たちは、その後、ルーブル美術館へ移動した。ルーブル美術館はとにかく広い。見たい絵画を事前に決めていたが、それらの絵画を見つけるのに時間がかかった。「ミロのヴィーナス」、「サモトラケのニケ」、「モナ・リザ」を見た後、ファディーラさんが勧めてくれた古代エジプト部門を見て回った。お墓が展示されていたり、巨大な像が何体も並んでいたりしてとても迫力があつた。古代のものが現在まで残っているということに驚きを隠せなかった。ルーブル美術館を楽しんだ後、エッフェル塔と凱旋門を順に訪れた。どちらも写真で見る以上に迫力があつた。目的の観光地を巡ったあと、夕食にガレットを堪能してホテルに戻った。歩数計を確認すると、この日だけで3万歩以上歩いていた。とても疲れたが憧れの観光地を次々と巡ることができてとても楽しかった。パリは人通りが多かったが、日本よりも道幅が広いこともあり、そこまで窮屈に感じなかった。

9月16日(火)

ホテルで朝食を食べたあと、行きたかった雑貨屋を訪れた。そこで土産を買って、その後、カフェ「カフェ・デ・ドゥ・ムーラン」に行った。ここは、映画「アメリ」の舞台となったカフェで、人気の観光地の一つだ。11時頃に行くと、あまり客はいなかった。私たちが食事を始めた頃に、続々と客が訪れた。訪れた客はほとんど日本人ばかりで驚いた。このカフェに限らず、パリ市内でも日本人をよく見かけた。日本人の声が聞こえる度に、少しほっとする自分がいた。その後、モンブランの発祥地であるカフェ「アンジェリーナ」にいった。モンブランに加えてマカロンも堪能した。最終日はパリの美味しいものでお腹が満たされた。食べるのが好きな私にとって至福の時間だった。空港に早めに移動して、出国時間まで待った。そして、とうとうパリを出発する時が来てしまった。時差の影響を少なくするためにできるだけ起きておこうとしたが、疲れていたもので寝てしまった。



人気 No. 1 クリームブリュレ

9月17日(水)

午後4時頃に羽田空港に到着し、午後9時頃に高松空港に到着した。家族、高松市国際交流協会の職員の方や、旅行会社の方が、空港で出迎えてくれた。お世話になった人たちに、思い出の写真、品物とともに、ツールでの活動を報告したいと思う。

感想文



食が私とトゥールをつなぐ

香川大学

農学部応用生物科学科 3年

田中 心渚

私は、大学で食品科学を学んでいることから、食を通じてトゥール市の人とつながりたいと思い、このプログラムの参加を志望しました。高松の「うどん」について知ってもらうことがトゥールの人々とつながる一つの手段であると考え、高松市紹介動画では、「うどん」を紹介しました。また、ホストファミリーには実際にうどんを振る舞うことでおいしさを伝えました。うどんについて知らない市民の方もたくさんいましたが、今回の活動を通して、より多くの人にうどんを知ってもらうことができました。同時に、うどんで有名な高松についても知ってもらうことができました。

トゥールでの研修中、たくさんの人と食事を共にしました。中でも、ホストファミリーと食事を囲む機会が最も多く、その時間は、私にとってかけがえのないものでした。ホストファミリーと食事を囲んで感じたことは、毎日の活動を振り返り、それらを家族と共有する時間が食事の空間に自然と組み込まれているということです。どんなに些細な事でも言葉に出して共有することで会話の種は広がりを見せました。気づけばもうこんな時間、ということも多々あり、本当に充実していたと感じます。食事という時間が自然と家族をつなぐ、そんなフランスの習慣に私は惹き込まれました。過去を振り返ってみると、食事に時間をかけて家族と楽しむ時間をほとんど持ってこなかったことに気づきました。中学・高校時代は勉強や部活動、大学に入ってから勉強やアルバイトなどを理由に、家族と食事をゆっくり共にする時間を避けてしまっていました。トゥールで新しい家族ができ、その人たちから学んだことは家族との時間を大切にすべきであるということです。家族に代わる大切なものはないと気づいた今、食を通して、家族との時間をこれからも大切にしていきたいです。

最後に、今回の活動にご尽力くださったすべての関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。皆様のご支援がなければ、この研修を成功に導くことはできなかったと思います。また、トゥール市親善派遣生のガブリエルとマルゴーは、活動初期から継続的に私たちをサポートしてくれました。2人のサポートがあったからこそ、研修を無事に終えることができたと感じています。研修を終えた今後も、引き続きトゥールと高松の友好な関係構築のために励んでまいります。

親善研修生 報告書 Ⅱ

日誌・活動記録

岡山大学 教育学部 中学校教育コース英語教育専修4年 山下 友大

9月4日(木)

高松市国際交流協会の青木事務局長から辞令を受けるまで、約2か月間、同じ研修生である田中さんと共に事前研修を受けてきましたが、つい昨日のように思えるくらいあっという間でした。事前研修を行ったからこそ、高松市の魅力を自身らも再発見でき、ツール市民の方々に、「高松をもっと知ってもらうために取り組みたい」と強く思うようになりました。本当に事前研修は、毎回楽しく、ツール市の滞在が楽しみになっていきました。いよいよ待ちに待った、高松市の姉妹都市フランス、ツール市へ出発する日を迎えました。高松空港には、高松市国際協会の青木事務局長、西村さん、高松商運株式会社の田井さん、お互いの家族が見送ってくださいました。「行って来ます！」とお互い元気よく羽田空港へと飛び立ちました。今回の往路は、北欧フィンランドのヘルシンキ空港を経由でした。羽田空港で乗り継ぎを待つ間、機内食も出るということで、最後の日本食は、とんぺい焼きを楽しみました。



最後の日本食のとんぺい焼き

9月5日(金)

約13時間のフライトを終え、ヘルシンキ・ヴァンター国際空港に到着しました。空港内でしたが、とても肌寒く、さすが北欧であると感じました。フィンエアーの機内は本当に快適で、機内食もとても美味しく、客室乗務員の皆さんも本当に優しくあっという間のフライトでした。フィンランドもフランスも、ヨーロッパの複数の国が国境検査なしで自由に移動できるシェンゲン協定加盟国であったため、ここでスムーズに入国審査等を行うことが出来ました。フランスへの航空機のゲートに向かうまでの間、ムーミントロールやスナフキン、ニョロニョロなどの絵本『ムーミン谷へのふしぎな旅』に登場するキャラクターがお出迎えしてくれました。また、クリスマスツリーやトナカイの毛皮などの置物もあり、いつか北欧フィンランドにも旅行に来てみたいなと思いました。田中さんとキャラクターの写真を撮ったり、ワークショップで行う折り紙の練習をしたりするとあっという間に搭乗の時間になりました。約3時間のフライトを終えると、フランス、パリ＝シャルル・ド・ゴール空港に到着しました。現地は、私たちの訪れを温かく迎えてくれたのか、雲があまりない晴天でした。パリでは、現地のガイドさんが私たちのTGV（フランスの高速鉄道）までの時間、スーツケースを見てい



ムーミンと記念撮影

てくださったり、最終日のパリの観光のおすすめを教えて下さったりしてくれました。パリ＝シャルル・ド・ゴール空港は、想像以上に広くて、行動するにもなかなか動きづらかったです。この時間を上手く利用して、田中さんと今後のスケジュールの確認やワークショップ等の最終確認などを行えた有意義な時間でした。トゥール行のTGVに乗る時間が近づいてきました。しかしながら、並んでいた場所と車両の位置が異なっていたり、乗りこんでも、前から乗っている乗客の人のスーツケースがあるせいで座席に行けなかったりするハプニングが起こってしまいました。しかし、運よく次の駅で多くの乗客が下りてくれたので、座席に行くことが出来ました。ハプニングも旅の良い醍醐味であると思います。1時間Google Mapで現在位置を確かめながら、フランスの建物や農場を眺めていると、あっという間に、サン・ピエール・デ・コール駅に到着しました。駅の改札を抜けると、トゥール市役所のオロールさん、私のホストファミリーのヤニックさん、ヤニックさんのお母さんのエレヌさん、田中さんのホストファミリーのファディーラさんがお出迎えをしてくれました。記念撮影をした後、エレヌさんと

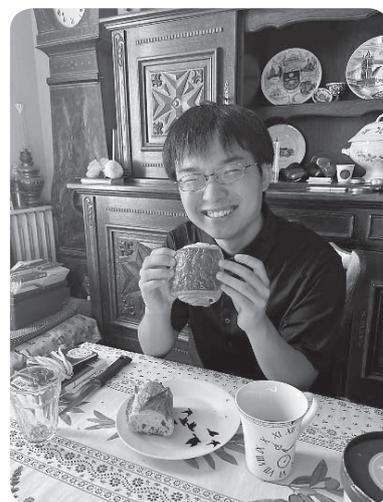


ヤニック家のみなさんと

ヤニックさんと車で家に向かった後、ヤニック家のみなさん（奥さん芽里奈さん、二男ルカ君、三男ルイ君、四男レオ君、五男トマ君、六男テオ君）ルカ君の友人のもう一人のトマ君、ヤニックさんが校長先生のトゥールラング語学学校の日本人の生徒さんリカさんが温かく迎えてくれました。最初は、とても緊張しましたが、みなさん笑顔で話しかけて下さってとても嬉しかったです。トランプで「大富豪」や「ババ抜き」をして遊んだり、会話を楽しんでいたりしたらあっという間に20時になっていました。フランスは、夜暗くなるのが遅く、「とも、晩御飯の時間だよ！」とヤニックさんに呼ばれるまで、時間間隔が全くありませんでした。ホームステイ先のエレヌさんの家に帰ると、エレヌさん、ヤニックさんの妹さんのエレンマリーさん、トゥールラング語学学校のエージェントの双葉さん、ヤニックさんが、夕飯を準備して待っていてくれました。初めてのフランス料理は、家庭料理のポトフでした。最高でした。

9月6日(土)

「Bonjour! Ça va (こんにちは! 元気) ですか?」ヤニック家のみなさんが元気に挨拶してくださったので、「Oui, je vais très bien! (はい、とても元気です!)」と元気に挨拶して一日が始まりました。ヤニックさんと双葉さんが朝食のパンをベーカリーに行ってくださいっていて、パンのいい匂いが食卓に漂っていました。私は、その中で、パン・オ・ショコラ（フランス南部ではショコラティエヌ）をいただきました。このパンが、今まで食べてきたパンの中で一番美味しく感動してしまいました。笑顔溢れる私をヤニックさんが写真に収めてくれて、今でもエレヌさん家のアルバムに残っています。フランスの方は、例えば、クロワッサンはここのお店、パン・オ・ショコラは、ここのお店という風にパンの種類ごとにお店選びをされていてこだわりが強いそうです。高松のうど



パン・オ・ショコラに感動

人も、私もそうですが、うどんの種類ごとにお店を選ぶこだわりが多い人もいるので、県民性、市民性に共通点を見つけることが出来ました。朝食後、トゥール市の旧市街地とプレミアムロー広場周辺をみなさんとお散歩しました。週末であることもあって、広場には、多くの市民の方々が、レストランやカフェでご飯やワインを楽しんでいて賑やかでした。日本と違って、レストランの中よりもテラスで過ごされている方がほとんどでした。また、広場には、歴史ある伝統的な家屋がそのまま残っており、



うちわワークショップで参加者と

中世のフランスの雰囲気を感じる事が出来ました。午後からは、トゥール植物園で開催された日本文化紹介イベントのうちわのワークショップを開催しました。オロールさん、田中さんと準備を進めていると、途中で、トゥール市親善研修生である、マルゴーさんとガブリエルさんが来てくれ、ここで初めて会いました。植物園では、日本のアニメのコスプレや武道やお茶などの体験型ワークショップ、お隣のブースでは、盆栽の苔玉作りが行われるなど、日本文化の紹介・理解促進を図るための地域社会・市民参加型のイベントが行われており、警備員による入場制限がかかるほど多くの市民の方が訪れていました。ヤニックさんが昼食にお好み焼き屋や焼きそばなどの日本食を買ってくれる予定でしたが、どこの屋台も大混雑で、売り切れも続出しており、途中で買ってきてくれたおにぎりとお水で適宜休憩を取りながら行いました。13時から2時間の私たちのワークショップでしたが、1時間もたたないうちにうちわは売り切れてしまいました。半紙に市民の方の名前を書いたり、高松の紹介を行ったりしました。マルゴーさんとガブリエルさん4人が協力して、ワークショップをやり遂げることが出来ました。2時間ずっと列が途切れることなく書道を書き続けた経験は今までなかったので、達成感と喜びがありました。私にサポートしてくれたマルゴーさんが、市民の方とお話する際に通訳をしてくれたり、書道や高松の紹介の際のサポートを必死にしてくれたので感謝の気持ちでいっぱいです。ワークショップ後、帰る途中で私たちのうちわを大事そうに持っている家族連れがたくさんいて心が温かくなりました。家に帰宅し、シャワーを浴び夕食を食べた後に、ホストファミリーに高松の伝統工芸品や日本のお菓子をお土産として渡したり、事前研修の際に折り紙講師の田中先生からご指導を受けた着物の折り紙を折って手渡しをしたりしました。本当にみなさん喜んでくれてとても嬉しかったです。

9月7日(日)

この日は1日ホストファミリーと過ごす日でした。朝食にクロワッサンをみんなで食べた後に、午前中は、エレンマリーさんがトゥール市役所周辺のマルシェに連れて行ってくれました。この日は、年に一度開催されるマルシェだそうで、市役所周辺全て、マルシェになっており、食べ物や服、お菓子などが大幅に値下げされるイベントだそうです。そのため、街を歩けば人混みですごいことになっていました。日本の家族や友達へのフランス限定のお土産を買いたいと言ったら、エレンマリーさんがフランスで有名な「ガレット・サンミッシェル」と呼ばれるお菓子屋さん連れって行ってく



年に一度のマルシェ

れて、ガレットやパルミエ、サブレココと呼ばれるフランス菓子がセットになっていた商品がこの日安くなっていたので、お土産としてたくさん買いました。この日は、トゥールの滞在の中で気温が最も高く2時間歩けばもう汗だくになっていました。水を適宜飲み熱中症に気を付けながらショッピングを楽しみました。午後は、ヤニックさんに交代し、双葉さん、ルカ君、ルカ君の友人の方のトマ君とロワール川にカヌーをしに行きました。カヌーは高校2年生の頃、修学旅行で訪れた北海道の支笏湖で行って以来久々のアクティビティーでした。フランスの世界遺産「アンボワーズ城」を出発地点として、3人が協力して1つのボートを漕ぎました。ロワール川は長さがフランス最長で1012km、流域面積が117,000 km²でフランスの面積を5分の1を占めるほど大きな川です。ロワール川の周辺には、多くの古城が建てられており、古城巡りをされる観光客が多いそうです。その川をカヌーで来たのは非常に貴重な経験になりました。カヌーをしながら、ロワール川周辺で生息している、鳥や魚をまじかに見ることができたり、周りの田園風景や石灰岩の崖を眺めたりすることで心が癒されました。3人で交代しながらカヌーを漕いでいましたが、非常に難しかったです。ロワール川は、流れが速いため、必死に漕いでも、左右どちらかに曲がってしまっと思い通りの所に進んでくれなかったり、パドルの水を押す力が重かったりし、苦戦しました。しかし、途中でみんなでバゲットやポテトチップスを食べたり、3人でフランスの事や日本の事などを話したりしていると最終目的地に到着することが出来ました。気づけば、約3時間、十数km漕いでいて達成感がありました。着いた時には、足の感覚がなく、迎えに来てくれたレオ君やルイ君に助けて貰いながら、ヤニックさんが校長を務めるトゥールラング語学学校のパティシエ養成学校に連れて行ってくれて、コーヒーや生徒さんが作ったケーキをみんなで食べながら疲れを癒しました。



ロワール河をカヌー

9月8日(月)



小学生と書道

今日からまた、日本文化紹介ワークショップがスタートします。朝食を食べて、毎回の集合場所であるリベラルテ駅に向かうと、田中さんや、マルゴーさん、ガブリエルさんが待っていてくれました。昨日のカヌーが原因で筋肉痛であることを伝えるととても笑ってくれました。週末の話をしているとすぐにバスが到着し、乗り込んで午前中の会場であるランボー小学校の最寄りのバス停に向かいました。ここで、ハプニングが起き、今日は最寄りのバス停付近は工事の影響で停車しないことがアナウンスで発覚しました。急なハプニングでしたが、2人が即座に対応してくれて、最寄りのひとつ前のバス停で降り、そこから小学校に徒歩で向かいました。小学校の校門の前で、校長先生が笑顔で迎えに来てくれました。私は、現在大学で教育学部に所属して、教育学を学んでいるため、今回トゥールの小学校を訪れることができワクワクしていました。教室に入ると、小学生が笑顔で私たちを迎えてくれました。まず、田中さんと制作した、屋島、瀬戸内国際芸術祭、うどんをテーマとした高松の紹介動画を見せた

後に、前半は折り紙と書道を行いました。人数が多かったため、田中さんグループと私のグループに分けて実施しました。私のグループでは、折り紙は紙飛行機を折り、誰の飛行機が一番空中時間が長いかを競い合いました。書道では、事前研修の際、書道講師の野村先生からのご指導を生かして、子ども達に書道の書き方の手本を見せて、実際に漢字に挑戦しました。小学生は、本当に真剣で好奇心旺盛で、熱心に取り組む姿は本当に感動しました。みな、上手に折り紙や書道の作品を作ることが出来ました。休憩後は、私の特技である日本の武道空手を紹介しました。空手の形（かた）を2種類演武した後に、全員で空手の道場稽古が始まる前の準備体操や基本を行いました。特に子供たちが上段蹴りや払い受けを何度も何度も挑戦していた姿は可愛かったです。ワークショップが終わってから、



感動した作品

多くの生徒さんが、「押忍（おす）」と掛け声を使ってくれて、フランスにも武道が広まっているのだと実感し嬉しかったです。職員室で、教員の方々と話したり、男性の先生がマジックを披露してくださるのを楽しんだりしつつ昼食を食べました。その後、みなさんに別れを告げて、4人で再び次の目的地であるトゥール美術館へ向かいました。

トゥール美術館では、学芸員の方がいくつか作品を英語で説明してくれました。そこで、印象に残っているのが、ピーテル作の『フィロモンとバウキスの家の、ジュピターとマーキュリー』という作品です。この作品は、貧しい老夫婦のもとを訪れた二人の旅人が、実は神ジュピター（ゼウス）とマー

キュリー（ヘルメス）であったという物語を描いています。老夫婦はその正体を知らぬまま、乏しい食料しか持たない中で心を込めてもてなしました。その誠実なもてなしに感動した神々は、壺のワインがいくら注いでも尽きないという奇跡を起こします。そこで老夫婦は初めて客人の正体に気づき、敬意を表して自分たちの飼っていた鷺鳥を生贄として捧げようとしたのですが、老いた二人は鳥を捕まえることができず、その鷺鳥は神々の足もとへ逃げ込みます。神々はその行為を止め、老夫婦の信仰心こそが何よりの供物であると告げるという話です。この作品の解説を聞き本当に心が温かくなりました。また、出国前に個人的にトゥールで見てみたかった作品にも出会うことができました。それは、ミシェル・コロンブ作の「聖母子



『聖母子』



高松市をみなさんに紹介

にかけて活躍した彫刻家で、トゥールの公園にも立像があるほど有名な方です。聖母マリアが幼子イエスを抱いている様子を鮮明に表しており感動しました。この日の最後は、「Maison de la Réussite（成功の家）」と呼ばれる施設を訪問しました。ここは、トゥールの公共施設で社会支援や教育支援を行っているところです。学校の授業に少しついていけない等の特別支援を要する学生が、この施設で放課後の時間を利用して学習支援や進路、就労支援を受けるこ

とができます。この施設では、高松の紹介動画を見せたり、みなさんと交流を行ったりしました。私は、高校生の女の子と仲良くなり、高校数学の分母の項が3つの時の有理化の問題の宿題を英語を使いながら教えてあげました。女の子が、「Merci beaucoup！（どうもありがとう!）」と笑顔で言ってくれて嬉しかったです。

9月9日（火）

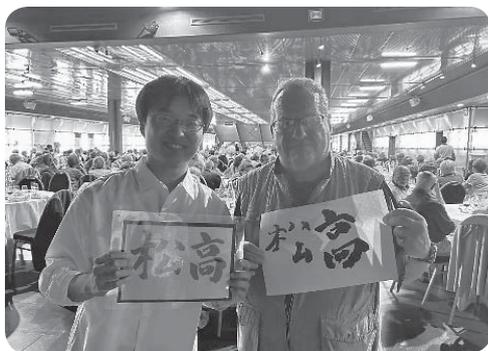
今日は、今年度新たに研修プログラムとして入った高齢者の方を対象としたイベントに参加します。過去の親善研修生の方も経験がなく、会場の雰囲気や動きが会場に行かなければ分からないと



トゥール市役所にて

いうことで、ドキドキの気持ちでいっぱいでした。エレヌさんとバゲットとコーヒーを朝食として取った後に、まずは、昨日の夜、急遽イベントの前に新聞社の方から取材を受けることになったので、トゥール市役所に向かいました。エレヌさんは午後からの高齢者の方を対象としたイベントに参加するため、一旦ここで別れました。トゥール市役所の取材では、フランス語で簡単な自己紹介をしたり、英語でトゥールを訪れてみての感想や、トゥールで取り組んでみたいことなどを話したりしました。その後、オロールさんや同僚の方がトゥール市役所を案内してくれました。高松市役所とはまた異なり、庁舎にある華やかで繊細な彫刻にはみな圧倒されました。その後、オロールさんと別れた後、いよいよ高齢者の方を対象としたイベントが開催される、Palais de Congres（会議場）に到着しました。そこには、多くの高齢者の方が受付をしていました。事前研修の際に、トゥール市の方から約50名の方が参加

されると聞いていましたが、ざっと数えても100名以上の方がいることに驚きを隠せませんでした。セキュリティゲートを抜けて、地下に降りると、800名の高齢者の方々が、楽しそうに食事やワインを楽しんでいました。人数の影響で、左側と右側にそれぞれ分かれていました。左側の方は、比較的若めで、活発的な方々が、右側は比較的更に高齢の方で、ダンスなどの活発的なものを楽しむよりも静かにお食事を楽しんでいる印象を受けました。今年度の研修では、交流する機会はありませんでしたが、以前の研修



参加者さんと書道

では交流があったとお聞きしている、日仏文化協会日の出を主宰しているレイコさんとお会いしました。レイコさんの団体も今回、私たち高松の紹介ブースの隣で、書道披露、紹介するブースを設けていました。ステージ上で、トゥール市長や市議会議員の方々の挨拶の後、イベントがスタートしました。食事や会話を楽しむ方もいれば、様々な文化紹介しているブースに足を運ぶ人、曲のリズムに乗りながら、ワルツやダンスを楽しむ人がいて本当にみんなが楽しそうなイベントでした。私も、ワルツに挑戦しましたが、なかなか足のステップが難しかったのですが、後半は徐々に習得し、完璧に踊り上げることが出来、みんなで終わった後に拍手で盛り上がりました。その後、提供された豪華な食事やデザートを楽しみつつ、私たちのブースでは、高松の紹介、折り紙、書道の実演等を行いました。その後、アナウンスが流れ、私たちのソーラン節を披露する時間が来ました。法被にお互に着替え

て、いざステージへ。ソーラン節に関心を持ってくれた高齢者の方々や司会の方々も混ざり、ソーラン節を披露しました。左側と右側のステージでそれぞれ1回ずつの計2回踊りました。田中さんのキレイキレイのソーラン節にさすがだなと思いました。みんなで汗をかきながら無事踊りきることができ、会場からは大きな拍手が送られました。ソーラン節は、田中さんが担当していて、今回事前研修の際に文化紹介に入れようと提案してくれたものでしたが、まさにこのイベントはソーラン節だからこそ盛り上がったと強く感じ、田中さんに感謝でいっぱいです。後半も、高松のブースをやりきり無事イベントは終了しました。本当にあつという間のイベントでした。楽しかったという言葉に尽きます。エレーヌさんが、迎えに来てくれて



ソーラン節の披露



クレープ作りに挑戦

私たちの活躍を非常に喜んでくれました。その後は、私は、ヤニックさんとクレープ作り、田中さんはガブリエルと柔道教室に行く予定がありました。エレーヌさんと一緒に家に帰り、田中さんに空手着を渡してお互い解散しました。今夜は待ちに待ったクレープ作りです。実は、派遣前に、高松市国際交流協会の国際交流事業で、南フランス出身のシリル・デュフステルさんが講師として、高松市鬼無コミュニティセンターでフランスのおかし「クレープ作り」のイベントをしていたのをインスタグラムで見て、私もフランスで作ってみたいと思っていたのです。昨日の夜に、ヤニックさんに高松でフランスに関するイベントを開催しているというを紹介したら、明日の夜に一緒にクレープを作ろうと提案してくれたのです。夢がフランスにて無事叶いました。フランスでは、初めてクレープ作りをするときは、左手にコインを握るそうです。フランスで新たな異文化を発見できました。おまじないが効いたのか、上手にクレープ

が作れて楽しかったです。日本では、クレープと聞くと、ホイップクリームがたくさんのもっている、イチゴやバナナなどの果物がのっている甘いスイーツとしてのイメージが強いですが、フランスでは、卵やチーズ、ハムなどを包む食事系のクレープ（ガレットと呼びます）もあるそうです。今日の夕食では、食事クレープも、デザートクレープも両方食べました。私は、やっぱりデザートクレープが好きです。

9月10日（水）



子供たちと折り紙

この日は、一つの心配がありました。それは、フランスの内閣総辞職によるストライキがトゥール市も含め、9月10日（水）と9月18日（木）にフランス全土で起こるというニュースです。そのため、この日ストライキの影響で、公共交通機関であるトラム（路面電車）やバスが使えなくなりました。そのため、オロールさんをはじめ、トゥールの方々で連絡を取り合って工夫してくださいました。田中さんと私の家の最寄りのレストラン前で集合した後、

近くの公園までエレヌさんが案内してくれました。その後は、Google Map を頼りに、最初の目的地であるキッズレジャーセンター (ALSH) に向かっていると、男性の職員の方が迎えに来てくれました。以前高松や広島県の尾道市などに行かれたことがあるらしく日本語が話せる方で驚きました。キッズレジャーセンターに到着すると、そこには可愛い幼稚園の年長程度の子供たちや、外で小学校の低学年程度の子供たちが元気よく遊んでいました。以前大学の比較教育学の講義で、フランスの教育制度では、公立の幼稚園や小・中学校では、子供の授業負担の軽減や、家庭のリズムに合わせた教育の推進を目的として、水曜日が通常の休日とされると学習しました。その先は、学習していなかったため、このキッズレジャーセンターのように、水曜日は、日本の学童保育のような専門の職員の方



聳え立つ記念碑

がしっかりと面倒を見てくれ、保護者の方の仕事や子供たちの思いに応じられる仕組みは素晴らしいなと思いました。高松の紹介動画を見せたり、折り紙で、飛行機や箱を職員の方々に通訳をしてもらいながら行ったりしました。一生懸命折り紙に挑戦する姿を見て嬉しかったです。子供たちと交流した後は、子供たちと同じ給食を食べました。とても美味しかったです。その後、みなさんにご挨拶して、次の集合場所まで徒歩で移動しました。その間、田中さんとロワール川のほとりを散歩したり、写真を撮ったりしました。集合場所のトゥール市立図書館の横には、記念碑が置かれてあり、最上部にはインディアン (アメリカ先住民を模した銅像が置かれており、その腕にはワシ (イーグル) が止まっている構図になっています。オロールさんに話を聞くと、第一次世界大戦 (1917-1918) において、トゥール市が SOS の司令拠点であり、フランスとアメリカの友好関係・戦時協力を象徴するものだそうです。高校世界史では習わない、現地だからこそ学べる興味深いお話でした。市役所の方と合流して、次にワークショップを行う図書館に車で向かいました。図書館は、非常に小さいながらも、地域の方々や学生の方が訪れる憩いの場になっていました。最初は、少なかつ



空手の披露

たのですが、事前に私たちのワークショップを広報してくれていたのか、気づけばたくさんの子連れの方が来てくれました。現地の高校で英語教師をしている方も通訳としてサポートしてくれました。高松の動画を見せた後に、私が空手の形 (かた) を 2 種類披露しました。ワークショップが始まる前から空手着を着ていたこともあって、空手の様子を動画で撮影している方や、空手に興味をもってくれた高校生がいて話しかけてくれました。2024 年のパリオリンピックで柔道の混合団体で日本を破り、金メダルを取るなど、柔道大国であるフランスですが、空手や合気道などの他の武道にも非常に興味を持っている方がいて、武道が世界に広がりつつあるなど実感しました。その後、子供たちと大人 (高校生以上) に分かれて、ワークショップをしました。私は、子供たちを対象に簡単な折り紙を折り、田中さんは、折り紙の着物や書道を行いました。子供たちは、動くものやしっかりと記念として形に残るものに興味を持っていて、折り紙は本当に彼らに刺さったと思います。あっという間のワークショップでした。終わった後、図書館の職員の方々が、「あなたたちが来てくれて本当に感謝している」と嬉しい言葉を何度もかけて下さった。私たちの取り組みが、日本に興味を持ってきているがなか

なか来日することができない市民の人々の思い出に残ると思うと本当に温かい気持ちになりました。別れを惜しみながら、トゥール市立図書館に向かい、オロールさんの車に乗り込み、いよいよ公式歓迎レセプションを行うために、トゥール市役所【婚礼の間】に向かいました。トゥール市役所の職員、ホストファミリー、今回の研修でお世話になるあるいはお世話になった関係者の方々、過去のプログラムでお世話になったOB、OGの方々などが集まってくださり緊張でいっぱいでした。スーツに着替えて、公式歓迎レセプションが開始されました。ストライキの影響で公共交通機関の乱れにより予定時間よりも1時間程度遅れての実施でした。私たちの高松紹介動画が流れた後、副市長さんからの挨拶があり、高松市と高松市国際交流協会から預かった記念品等をお渡ししました。その後、私たちのスピーチに移った。実は、毎晩ヤニックさんがミニフランス語講座を私にして下さり、フランス語を磨いていました。そのため、冒頭ではできるだけフランス語を用いてスピーチをしました。その後、英語でトゥール市の方々に、高松の瀬戸内国際芸術祭、日本の武道の空手の魅力を広めること。フランスで最も発音がきれいだとされているトゥールでフランス語を学びたいと述べ、帰国後香川県の教員になり、子供たちに今回の経験をしっかりと伝えるのが目標ですと決意表明もしました。スピーチ後、ホストファミリーや関係者の方々からスピーチの事を褒めて下さり本当に嬉しかったです。その後は、関係者の方々とたくさんお話ししました。そこで、提供されていた、トゥールを含むロワール地方で生産される「ヴーヴレ」とよばれる白ワインを飲んだことで、ワインのおいしさに気づきました。素敵なお縁で、令和4年度受入親善研修生で高松に滞在していたオセアヌさんと会いました。現在、オセアヌさんはトゥールでホテルのフロントスタッフをしているようで、私も高松のホテルでフロントスタッフをしているので共通の話で盛り上がりました。当時の研修のことも教えて下さりました。小雨が降る中ホストファミリーと帰宅すると、夕飯はステーキを作ってくれました。ジューシーで柔らかくて美味しかったです。思わず、口から「C'est bon! (美味しい!）」とフランス語が出てきて、みんな笑ってくれました。



市役所でのスピーチ

9月11日(木)

この日は、私にとって大きな出来事がありました。それは、香川県の公立中学校の教員採用試験の合格発表です。この夏は、私はトゥール市派遣に向けて事前研修をこなしながら両立して、教員採用試験の勉強や試験を受験していました。フランスで合格発表を見るという、とても稀な体験でした。日本とフランスの時差は、サマータイムの期間中はマイナス7時間ですので、現地の深夜に発表を待つことになりました。この日は、緊張していたため一睡もすることが出来ませんでした。ついに合格発表、結果は無事合格でした。自分の受験番号を見た時には、今まで友人や大学の先生方とともに努力してきたことが思い起こされて、嬉しさのあまりベッ

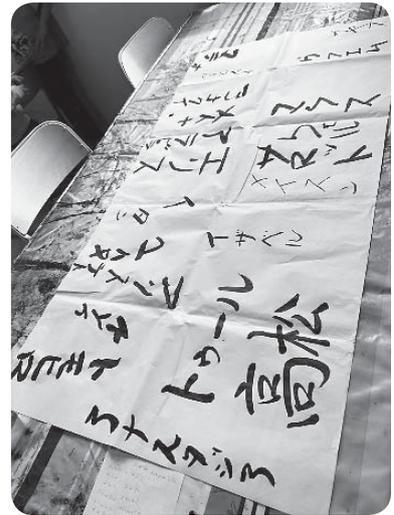


新聞に活動が掲載されました



木造建築のミニチュア

ドの上で一人号泣していました。昨夜、ヤニックさんたちも、合格を祈ってくれていて、朝みなさんに報告するととても喜んでくれました。田中さんと合流し、トラム（路面電車）に乗り込み、午前は、従弟制度博物館（工芸博物館）の見学を行いました。この博物館は「Compagnonnage（コンパニョナージュ）」という、フランスの伝統的な職人制度・徒弟制度を中心に、その歴史、技術、文化、シンボル、儀礼などが紹介されていました。彼らは、ロワール渓谷がある地域での城の構築として活躍したり、鍛冶屋、紡績工、革職人、ワイン樽の製造などで必要とされていたりしたそうで、ツール・ド・フランスと呼ばれる、専門留学のための旅行を通じて技術を磨いたそうです。私は、その中でも、木造建築のミニチュアの骨組みには圧倒されました。その後、オロールさんと合流し、トゥール市役所の食堂で昼食をとりました。食堂は、好きなものを店員の方に伝え、プレートに乗せてもらう仕組みでした。久しぶりに食べた、生野菜や、周辺のパティスリーが作っているシュークリームは最高でした。お腹が満たされた後は、シモーヌ・ヴェイユ小学校を訪問しました。ここでは、要望があり、4部構成で交流を行いました。1、2部はそれぞれ約30分間ずつ、高松の紹介動画と空手を披露、基本練習を子供たちと教職員みんなで行いました。参加生徒は、4歳から8歳と非常に幼く、動画中に出てくる、屋島にある瀬戸内国際芸術祭の作品である、「屋島アート動物園」の動物たちを探したり、空手の突きや蹴りなどの体を動かしたりすることにとっても興味を持ってくれました。3、4部では、8歳から10歳の子供を対象に折り紙や書道を行いました。ワークショップを行う中で、多くの子供たちが、彼らが好きな日本のアニメやスポーツの事を必死に英語で伝えてくれてとても嬉しかったです。書道を終えて、子どもたちに別れを告げると、多くの子供たちが私たちのもとに来てくれて、抱きしめてくれたり、飴をくれたりと本当に別れが寂しくなりました。子供たちの優しさに元気をもらえました。この日の最後は、私のホストファミリーのヤニックさんが校長先生を務めている、トゥールラング語学学校で、フランス語を勉強している留学生と交流をしました。ルカ君、リカさんをはじめ、既に何人かの生徒さんとはヤニックさんの家の庭で遊んでいたため、その友人をたくさん紹介してくれました。ほとんどが、日本をはじめとするアジアの地域の留学生が多かったです。年齢も高校生から30歳の方まで幅広く、アットホームな雰囲気楽しそうでした。交流する中で、ほとんどの方が、フランス語の語学面のためだけではなく、パティシエになるために技術を学びに来ているそうです。トゥールラング語学学校の生徒さんとお別れして、ルカ君と数人の生徒さんとスーパーに買い物に行った後、家に帰りました。すると、ホストファミリーの皆さんが、チーズフォンデュと私がトゥールで好き



みんなで書いた名前



語学学校のみなさんと

ドの上で一人号泣していました。昨夜、ヤニックさんたちも、合格を祈ってくれていて、朝みなさんに報告するととても喜んでくれました。田中さんと合流し、トラム（路面電車）に乗り込み、午前は、従弟制度博物館（工芸博物館）の見学を行いました。この博物館は「Compagnonnage（コンパニョナージュ）」という、フランスの伝統的な職人制度・徒弟制度を中心に、その歴史、技術、文化、シンボル、儀礼などが紹介されていました。彼らは、ロワール渓谷がある地域での城の構築として活躍したり、鍛冶屋、紡績工、革職人、ワイン樽の製造などで必要とされていたりしたそうで、ツール・ド・フランスと呼ばれる、専門留学のための旅行を通じて技術を磨いたそうです。私は、その中でも、木造建築のミニチュアの骨組みには圧倒されました。その後、オロールさんと合流し、トゥール市役所の食堂で昼食をとりました。食堂は、好きなものを店員の方に伝え、プレートに乗せてもらう仕組みでした。久しぶりに食べた、生野菜や、周辺のパティスリーが作っているシュークリームは最高でした。お腹が満たされた後は、シモーヌ・ヴェイユ小学校を訪問しました。ここでは、要望があり、4部構成で交流を行いました。1、2部はそれぞれ約30分間ずつ、高松の紹介動画と空手を披露、基本練習を子供たちと教職員みんなで行いました。参加生徒は、4歳から8歳と非常に幼く、動画中に出てくる、屋島にある瀬戸内国際芸術祭の作品である、「屋島アート動物園」の動物たちを探したり、空手の突きや蹴りなどの体を動かしたりすることにとっても興味を持ってくれました。3、4部では、8歳から10歳の子供を対象に折り紙や書道を行いました。ワークショップを行う中で、多くの子供たちが、彼らが好きな日本のアニメやスポーツの事を必死に英語で伝えてくれてとても嬉しかったです。書道を終えて、子どもたちに別れを告げると、多くの子供たちが私たちのもとに来てくれて、抱きしめてくれたり、飴をくれたりと本当に別れが寂しくなりました。子供たちの優しさに元気をもらえました。この日の最後は、私のホストファミリーのヤニックさんが校長先生を務めている、トゥールラング語学学校で、フランス語を勉強している留学生と交流をしました。ルカ君、リカさんをはじめ、既に何人かの生徒さんとはヤニックさんの家の庭で遊んでいたため、その友人をたくさん紹介してくれました。ほとんどが、日本をはじめとするアジアの地域の留学生が多かったです。年齢も高校生から30歳の方まで幅広く、アットホームな雰囲気楽しそうでした。交流する中で、ほとんどの方が、フランス語の語学面のためだけではなく、パティシエになるために技術を学びに来ているそうです。トゥールラング語学学校の生徒さんとお別れして、ルカ君と数人の生徒さんとスーパーに買い物に行った後、家に帰りました。すると、ホストファミリーの皆さんが、チーズフォンデュと私がトゥールで好き

になった白ワインの「ヴーヴレ」を用意してくれていて、全員が、「とも、合格おめでとう」と、教員採用試験の合格を祝ってくれました。フランス・トゥールでお祝いしてくれる私は本当に幸せ者です。どんな先生になりたいのか、フランスと日本の教育の事を話したり、ヤニックさんから教員になってのアドバイスをいただけたりしました。4月からいよいよ始まる教員ですが、頑張りたいと思いました。みなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。



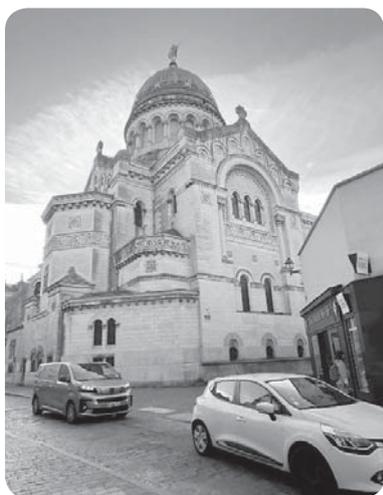
教員試験合格を祝ってくれました

9月12日（金）

この日はいよいよワークショップを行う最終日になりました。午前中まずは、自然史博物館の見学を行いました。担当のオドレイさんが、私たちにつきっきりで館内を案内してくれました。1階は、主にロワール川の周辺で生息する魚たちや鳥たちを紹介するブースでした。カヌーを先週した際に見かけた鳥もこちらに模型として展示されていました。日本と同じようにフランスでも自然保護を大切にしている印象を受けました。2階は、虫類が実際に生きた状態で展示されていました。以前の研修生の報告書で見た、蛇やトカゲなどは非常に可愛かったです。しかし、日本では見かけることはないであろう色をした大量のアリやカエル達にはびっくりして鳥肌が立ってしまいました。私たちの様子を見て、オドレイさんは配慮してくれました。3階では、貴重な石や、熊やクロコダイルなどの等身大のレプリカがたくさん展示されていました。迫力満点で興奮



ヘビと記念撮影



サン・マルタン聖堂

しました。博物館の方々に別れを告げて、昨日と同じようにオロールさんらとトゥール市役所で昼食をとりました。その後、アナベルさんがトゥール市内約2時間ガイドしてくれました。この日が唯一トゥール市内をゆっくりと観光できる日で、歴史的な建築物やトゥールの歴史などを詳しく説明してくれました。特に印象に残ったのは、サン・マルタン聖堂です。サン・マルタンはガリア・フランク王国の時代の重要なキリスト教司教であり、トゥールの守護聖人の一人とされています。かつて、西ヨーロッパで一番重要な巡礼地の一つとしても数えられていたように、今でもトゥールにとって大切な聖堂だそうです。この聖堂は、サン・マルタンの生誕1700周年の2016年に修復が終わり、建物の中央にあるドームの上には修復されたサン・マルタンの銅像が、トゥールの街を見守っています。この日は気が付けば、9.8km歩いていました。約2時間でトゥール市の事をさらに知ることが出来ました。その後、マルゴーさんとガブリエルさんと合流した後、お土産などを買う自由時間を過ごし、バス停に日仏交流協会の39Japanのベティーさんが車で迎えに来てくれ、会場まで乗せていってくれました。ベティーさんは、39Japanの代表で、日本に滞在されていたこともあり、日本人並みに日本語がペラペラでした。この協会では、フランス人の方々に日本語や日本の文化などを教えていま

す。高松の動画を観せている間に、私たちは空手やソーラン節の法被に着替えました。まずは、空手を紹介しました。2種類の形（かた）を披露した後、全員で空手の基本の動作を行いました。小学校で行った時よりも動作一つ一つ丁寧に行ってくださいました。空手を紹介している際に、質問タイムを設けたのですが、一人の男性が「空手を行う上で一番大切なことは何ですか?」と聞いてくださいました。私は、「礼儀（Respect）」と回答しました。礼に始まり礼で終わるといふ武道の大切なことをしっかりとフランスの方々伝えることが出来たと思います。空手を行った後は、みなさん良い汗を流してくれました。その後、田中さんのソーラン節に移りました。空手のすぐ後ですので、少し休みを取ってしまいました。日本の伝統的な踊りに触れることができ、みなさん興味津々でした。腰を低くする動作は日常でなかなか無いようでみなさん試行錯誤していました。空手とソーラン節を終え、みなさん笑顔で楽しんでくれました。その後、お菓子やジュースを飲みながら、質問タイムや自由交流の時間になりました。みなさん本当に日本のアニメや食べ物に興味がありました。その中で、日本と言えば、東京や京都、大阪などの主要な都市に海外の方々には興味があるだろうと思いましたが、例えば、四国の八十八か所巡りを行うことが夢であるといった方や、岡山県の児島のジーンズに興味があるといった方など地方にも目を向けて下さる方がいて驚きました。近年高松空港の国際定期路線の増便や瀬戸内国際芸術祭の開催など、昔よりもより一層海外の方が来日しやすい環境になっています。だからこそ、私たちも海外の方々に高松や日本の魅力を伝え、好きになってもらうために取り組むべきだと実感しました。楽しい時間はすぐに過ぎ、39Japanのみなさんとお別れし、ベティーさんに家まで送迎していただきました。実は、ベティーさんは、ヤニック家のテオ君のゴッドマザーでした。ゴッドマザーとは、キリスト教の伝統で、子どもが洗礼を受ける時に神に対する契約の承認になる人で、両親に何かあった際の後見人だそうです。そのため、家で、ベティーさんを含めてみんなでゆっくりしました。夕食を食べた後は、ヤニックさんのミニフランス語講座を受けて、明日のお城を楽しむための事前知識としてフランスの歴史を英語で分かりやすく教えてくれました。高校の世界史で学んだことがここにきて生かされました。明日が楽しみです。



39Japanのみなさんと

9月13日（土）

ホストファミリーと過ごす最後の週末になりました。ヤニックさんが、田中さんのホストファミリーと週末の事を話してくださいました。土曜日は、私が田中さんのホストファミリーのもとへ、日曜日は田中さんが私のホストファミリーのもとへ行くことになりました。田中さんのホストファミリーの方と話す機会はほとんどなかったのが非常に楽しみです。朝ごはんはバゲットを食べて、いざ田中さんのホストファミリーのもとへ。家に行き少し待つと、ホストマザーのファディーラさんと留学生のマシアさんが出迎えてくれました。車に乗り、目的地であるシャンボール城へ向かいました。実は、例年、研修生の方々は、ヴィランドリー城やブロワ城などが



田中さんとお城の前で

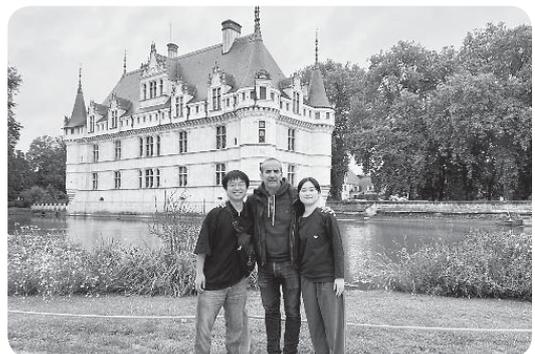


二重螺旋構造

研修に入っていたのですが、今年は、多くのワークショップもあり古城に行く機会がなくなっていました。しかし、私と田中さんがホストファミリーに古城に行ってみたいと話したりしたことが実を結び、週末古城に連れて行ってくださることになりました。車で1時間高速道路を走るとシャンボール城に到着しました。シャンボール城は、ロワール最大の規模を誇るお城で、フランソワ1世の命により1519年から1547年まで28年の年月をかけて建てられたフランス・ルネサンス建築を代表する建造物です。居住用ではなく、狩のために訪れるお城です。1981年から2000年にかけて、シャンボール城は「シャンボールの城と領地」として単独で世界遺産に登録されていましたが、2000年から「シュリー・シュル・ロワールとシャロンヌ間のロワール渓谷」としてロワール川流域にある他の城とともに世界遺産に登録されています。また、ディズニー映画『美女と野獣』やアニメ『ワンピース』の世界で神が住む土地、聖地マリージョアのモデルになっているお城です。壮大で美しいお城であり、樹木やバラが植えられているフランス式庭園には息をのむほど圧巻でした。正面から眺めるだけでも満足なぐらい素晴らしかったです。チケットを購入し、お城の中に入ると、レオナルド・ダ・ヴィンチの考案とされる二重螺旋構造がありました。この構造の特徴的どころが、昇降が人とすれ違うことなくできるという部分です。フランソワ1世の居室や礼拝堂など迷子になりそうなくらい広い部屋を見学したり、バルコニーに出て、写真撮影を楽しんだりしました。見学を終えた後、昼食にブリトーを食べていると、大雨が降ってきました。私たちは雨が降らず見学でき本当に幸運であったと思います。帰り道に、田中さんのうどんの材料を買いにアジア系のスーパーマーケットに行きました。そこで、私も購入できていなかった、お味噌汁やほうじ茶を買いました。日本の食品は、だいたい日本の3倍くらいの値段で売られていました。家に帰って、雨に濡れていたのも、シャワーを浴びているとヤニックさんと双葉さんが、今日私が作ろうとしていたお好み焼きに使う具材を買ってきてくれました。本当は、私が買いに行く予定でしたが、シャンボール城に行くため親切に買ってきてくれました。フランスの食材は、想像していたよりも大きかったです。お好み焼きはエレーヌさんの好物だそうで楽しみにしてくださっていました。ヤニックさんや双葉さんに手伝ってもらいながら、フライパン2個ずつ使用し、合計8個のお好み焼きとお味噌汁を作りました。みんな美味しいと、僕が全て作り終えるまでに食べてしまっていて面白かったです。自分的にも上手く作れたと思います。「明日どこに行くか秘密！」と言われてドキドキしながら寝室に行きました。

9月14日(日)

ホストファミリーと過ごす最後の日が来てしまいました。実は、ヤニックさんが私たちにサプライズで、フランスの有名な世界遺産モン・サン＝ミシェルとブルターニュ地方に位置する港町であるサンマロ(Saint-Malo)に連れて行ってくださる予定でしたが、あいにく現地が大雨と強風であるとのことで今回は見送ることになりました。また、数年後にフランスに帰っ



アゼ・ル・リドー城

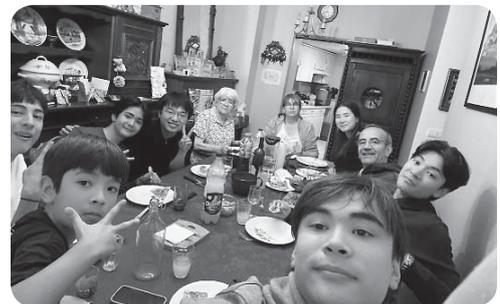
てきたら行こうと約束しました。その代わりに、たくさんの古城に連れて行ってくれました。1つ目は、アゼ・ル・リドー城です。フランスの有名な小説家である、オノレ・ド・バルザックが、「アンドル川にきらめくダイヤモンド」と称えたように、本当に水面に浮かんでいるかのように見える小さいお城です。スイスにあるシヨン城に雰囲気が非常に似ています。現在は、博物館として公開されており、16世紀初頭の家具やタペストリー（織物）、王や王妃の肖像画や、シャンボール城でも発



ロッシュ城

見した、フランソワ1世のサラマンダーの紋章を目にすることが出来ました。午後からは、ロッシュ城に行きました。このお城は、フランスとイングランドが争った百年戦争の末期に、シャルル王太子が居住していたものです。有名なジャンヌ・ダルクが、1429年にオルレアンを解放した後にこのお城に向かってきたことでも有名だそうです。ロッシュ城は、主塔の砲台や砦などから美しい眺望を見られたり、ジャンヌ・ダルクなどのフランスの有名な人物の歴史について学べたりすることが出来ました。今回の古城めぐりはほんと一部にしかすぎないようで、まだまだ古城がたくさんあるそうです。シャンボール城の壮大で豪華なものから、アゼ・ル・リドー城やロッシュ城の様に小さいながらも美しいお城などバリエーションがあり非常に興味深かったです。ぜひ、残りの古城もいつか訪れて制覇したいです。夕食は、エレーヌさんやエレンマリーさんが手作りピザを作ってくださいました。ヤニック家のみなさんも集まり楽しい食事になりました。夕食の際に、トゥールでの思い出を話していると、みなさんと会えなくなるのがさみしくなり泣いてしまいました。でもみなさん全員が、「また帰ってきてね」と言って下さり、本当に素敵なホストファミリーに迎えて下さって嬉しい気持ちでいっぱいでした。1人1人と、最後ハグをしてお別れしました。もし、今回の研修で一番何が良かったと聞かれたら、「ホームステイ」と即答すると思います。それぐらい良い思い出になりました。

見した、フランソワ1世のサラマンダーの紋章を目にすることが出来ました。午後からは、ロッシュ城に行きました。このお城は、フランスとイングランドが争った百年戦争の末期に、シャルル王太子が居住していたものです。有名なジャンヌ・ダルクが、1429年にオルレアンを解放した後にこのお城に向かってきたことでも有名だそうです。ロッシュ城は、主塔の砲台や砦などから美しい眺望を見られたり、ジャンヌ・ダルクなどのフランスの有名な人物の歴史について学べたりすることが出来ました。今回の古城めぐりはほんと一部にしかすぎないようで、まだまだ古城がたくさんあるそうです。シャンボール城の壮大で豪華なものから、アゼ・ル・リドー城やロッシュ城の様に小さいながらも美しいお城などバリエーションが



ホストファミリーと最後の夕食

9月15日(月)



エレーヌさんとお別れ

と約束し、お別れしました。トゥール市役所の職員のオードさんが、TGVの駅、サン・ピエール・デ・コール駅まで送ってくれました。そこでは、マルゴーさんとガブリエルさんもわざわざお見送りの為

ついにトゥールを旅立つ時が来ました。最後エレーヌさんとフランス語で会話しながら、バゲットを食べました。エレーヌさんは本当に優しく今回安心して過ごすことが出来ました。スーツケースを準備し、集合場所であるトゥール市役所まで歩いていく予定でしたが、ヤニックさんが迎えに来てくれました。この日は、平日で、お仕事が忙しく、特にこの日はオーストリアからたくさんの学生さんが来るにもかかわらず、時間を作ってわざわざトゥール市役所まで送ってくれました。「10月に高松で必ず会おうね」と約束し、お別れしました。トゥール市役所の職員のオードさんが、TGVの駅、サン・ピエール・デ・コール駅まで送ってくれました。そこでは、マルゴーさんとガブリエルさんもわざわざお見送りの為

に駆けつけてくれました。みなさんにさよならを告げて、TGVでパリに向けて出発しました。田中さんと話していましたが、旅の最初は、パリでの滞在も楽しみにしていましたが、今となっては、パリに行くよりもトゥールにもっと滞在したいといった気持ちに変わっていました。行きのようなTGVでのハプニングもなく、思い出の写真を見返しているとすぐにパリに到着しました。パリ・モンパルナス駅を降りると、Uberタクシーを利用して、私たちのホテルである、コーマルタン・オペラへ移動しました。ホテルに荷物を預けた後に、翌日の空港行きのバスである、ロワシーバスの停留所を確認した後に、パリ観光へと向かいました。私たちの強みは行動力であるので、行きたいところは制覇できるように計画を事前に立てていました。最初に、お昼ご飯を済ませようと、ぶらりとパン屋さんに入りました。何気に入



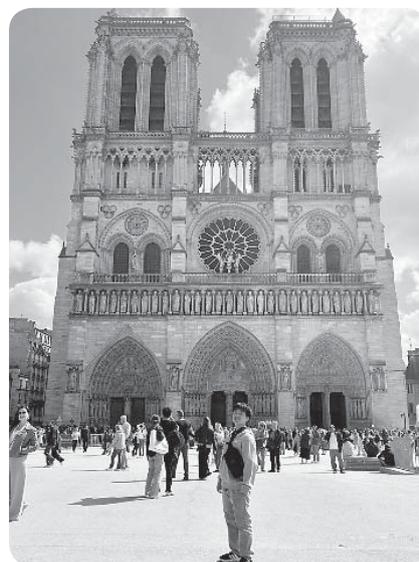
2人とお別れ



田中さんと昼食

ったパン屋さんでしたが、パリ市内に6件もお店を構える有名なパン屋さんだと後からSNSで気づきました。名前は、「BO & MIE」というお店です。私は、大好きなフランボワーズのクロワッサンとチーズパンを選択しました。料金は、7€(約1,233円)でした。食べた瞬間、これは間違いのない美味しさだと興奮しました。その後、訪れたのは、ノートルダム大聖堂とサント・シャペルです。どちらも、中には入らなくて外からでしたが、有名なゴシック様式の建物で圧倒されました。ノートルダム大聖堂は、2019年に火災

がありましたが、現在は、一般公開が再開されているようで多くの観光客の方であふれていました。それから、事前に予約していたルーブル美術館の時間が迫ってきたので、美術館に向かいました。私がパリで一番行きたかった場所です。予約なしでは、難しいくらい多くの観光客でごった返していました。ルーブル美術館の中に入ると、とても広いことに驚きました。美術館で、個人的に「モナ・リザ」「サモトラケのニケ」「ミロのヴィーナス」「民衆を導く自由の女神」を見たいと思っていましたが、見つけるのに1時間以上かかりました。事前に調べることが重要だと感じました。しかし、教科書で見たことがある作品が至る所に展示されていて、教科書の中に入り込んだかのように夢中になりました。あっという間に想定していた時間を超えていました。美術館を後にして向かうのは、エッフェル塔です。途中オルセー美術館の前で写真を撮りました。地図では、観光地は集まっているように見えますが、実際歩いてみると、1時間くらい、観光地と観光地の間は離れています。エッフェル塔に到着すると、美しくそびえたっていました。近くで見ると、テレビで見る以上に鉄骨構造と茶色が目立っていてカッコよかったです。2024年のパリオリンピック・パラリンピックのエンブレムが残っていましたので、記念にエッフェル塔をバックに撮影しました。次に向かうは、ナポレオン・ボナパルトが



ノートルダム大聖堂



エトワール凱旋門

建設を命じた、エトワール凱旋門です。エトワール広場には、12本の放射状道路（アヴェニュー）があり、車の動きが非常にきれいでした。ここでの写真が個人的には好きです。ホテルに帰る道で、シャンゼリゼ通りを通りました。「オー・シャンゼリゼ」という曲は、保育園などの幼いころにも歌ったことがある曲です。歌詞の様に、華やかでルンルンした通りなのかと思っていましたが、実際は、高級なブランドのお店や見たことがあるチェーンのお店が多く、日本でのイメージとは少し変わってしまいましたが、歩くのは楽しかったです。途中で雨が降ったり止んだりする中で、無事ホテルの周辺まで帰ってきました。田中さんのリクエストで、夕食は、ガレットを食べました。クッキーのような焼き菓子であるガレットもありますが、このガレットは、フランス発祥のそば粉で作るクレープです。歩き疲れて

非常にお腹も空いていたので美味しかったです。スマートフォンの万歩計では、この日は19.36km、歩数は34,459歩歩いたと表示されていました。日本ではもう見られなくなった、炭酸飲料の「オランジーナ」を近くのスーパーで購入しその日は早めに就寝しました。

9月16日（火）

ついに、フランスを離れる日が来てしまいました。今年は、午前中はパリでゆっくりできる時間をいただきましたので2人でぎりぎりまで楽しみました。朝食をホテルでとった後は、田中さんのリクエストで、フランスのお土産が売られているお店に行きました。そこで、パリでのお土産を買いました。次に、私のリクエストで、「カフェ・デ・ドゥ・ムーラン（Café des Deux Moulins）」と呼ばれるカフェに行きました。2001年に日本でも公開された、フランス映画の「アメリ」の舞台になったカフェです。この映画で、アメリがクリーム・ブリュレの表面のカaramel層を「パリパリッ」と割って食べるシーンは有名です。店内に入ると、非常におしゃれなカフェでした。面白いことに、カフェの中のお客さんは日本人だら



アンジェリーナ



クリーム・ブリュレ

けでした。運よくアメリの絵の前の席に座って食事をする事が出来ました。私は、もちろんアメリのクリーム・ブリュレを注文しました。お値段は、9.50€（約1,670円）+チップ代でした。アメリの様にスプーンで表面を割って食べました。甘くて絶品でした。店内も店員さんも非常におしゃれでまるで映画の中に入り込んだような気分になりました。お互いまだ物足りないと言うことと、マカロンを本場で食べてみたい気持ちがあったので、「アンジェリーナ（Angelina）」に行きました。ココ・シャネルが訪れ、モンブラン発祥のお店として有名なスイーツ店です。運よく平日だったため、



いよいよ帰国

10 数分待てばお店の中に案内されました。私は、モンブランとカプチーノ、マカロン2種類を注文しました。お値段は、20.5€(約3,600円)でプチ贅沢です。ここで、パリに来たなという実感がわきました。笑みが出るくらい美味しかったです。スイーツ好きにはおすすめのお店です。パリを思う存分満喫して、昨日確認したバス停からロワシーバス (Roissy Bus) に乗り、パリ＝シャルル・ド・ゴール空港に向かいました。バスは、クレジットカードのタッチ決済があれば、事前購入しなくても乗ることが出来ました。時間に余裕をもって空港に到着していたので、5時間ほど空港でゆっくりできました。現地時間の20時25分に羽田空港に向けて出発しました。

9月17日(水)

17時前に羽田空港に到着して、一度手荷物を受け取り、チェックインを再度行った後に、高松空港への最終便の飛行機に乗り込み、羽田空港を出発しました。21時半ごろに高松空港に到着しました。到着すると、高松市国際交流協会の西村さん、高松商運株式会社の田井さん、お互いの家族がお出迎えをしてくれました。今後は、今回の経験を多くの人々に伝えるために、今後のツール市紹介イベントや、親善研修生報告会に向けてまた準備していきたいと思います。10月に、研修生として高松に来るマルゴーさんやガブリエルさん、ホストファミリーのヤニックさんとまた会える予定なので非常に楽しみです。



羽田空港に到着

感想文



トゥールで深めた交流と、 教師としての新しい出発

岡山大学 教育学部

中学校教育コース英語教育専修4年

山下 友大

フランス・トゥール市で過ごした日々は、私にとって忘れられない貴重な経験となりました。事前研修でお世話になった講師のみなさま、同じ研修生の田中さんをはじめ、現地で支えてくださったトゥール市役所の方々、そして温かく迎えてくれたホストファミリーのみなさんに深く感謝しています。

これまで自分は、模擬国連の世界大会など、海外でのプログラムに多く参加してきました。しかしながら、地元・高松市の魅力を伝える立場として海外へ行くのは初めてでした。だからこそ、今回の研修では、「大好きな地元高松市とトゥール市を結ぶ懸け橋になること」を目標に、三つの挑戦を掲げました。一つ目は、瀬戸内国際芸術祭を紹介し、アートを通じて地域が活性化している高松の魅力を伝えること。二つ目は、幼いころから習ってきた空手を披露し、空手の形（かた）の美しさや武道の礼の精神を現地の人々と共有すること。三つ目は、国内でもっともきれいなフランス語が話されるといわれるトゥール市でフランス語を学び、より深い交流を図ることでした。瀬戸内国際芸術祭の紹介では、事前研修で屋島や高松港周辺の芸術作品に足を運び紹介動画を作成しました。多くの人に関心を示し、「ぜひ訪れてみたい」と言ってくれました。また、空手の披露では、子供たちと一緒に基本の形を練習し、礼儀や集中の大切さを伝えることができました。言葉が通じなくても、動作や笑顔を通して心が通じる瞬間がありました。さらに、フランス語を使って挨拶や会話に挑戦したことで、言葉以上に「相手の文化を尊重する姿勢」が大切だと実感しました。こうした体験を通して、「自分の言葉で互いを理解しようとする」と感じました。文化の違いに戸惑うこともあったが、異なるからこそ学び合えることが多く、世界がより身近に感じられました。

帰国後、教員採用試験の合格通知を受け取りました。夏は、事前研修と両立しながら教員採用試験の勉強や受験もしていました。事前研修中からの目標であった「香川県の中学校で英語教員として働く」という夢が現実となり、4月からその第一歩を踏み出す予定です。トゥール市での学びと出会いを、今度は自分の授業を通して子供たちに伝えていきたいと思います。この経験を通じて、人と人をつなぐことの大切さ、そして自分の地域を誇りに思う気持ちを学びました。これからは教師として、次の世代にその思いを受け継いでいきます。